

磯長山田陵

河内國南河内郡山田村大字山田字高塚

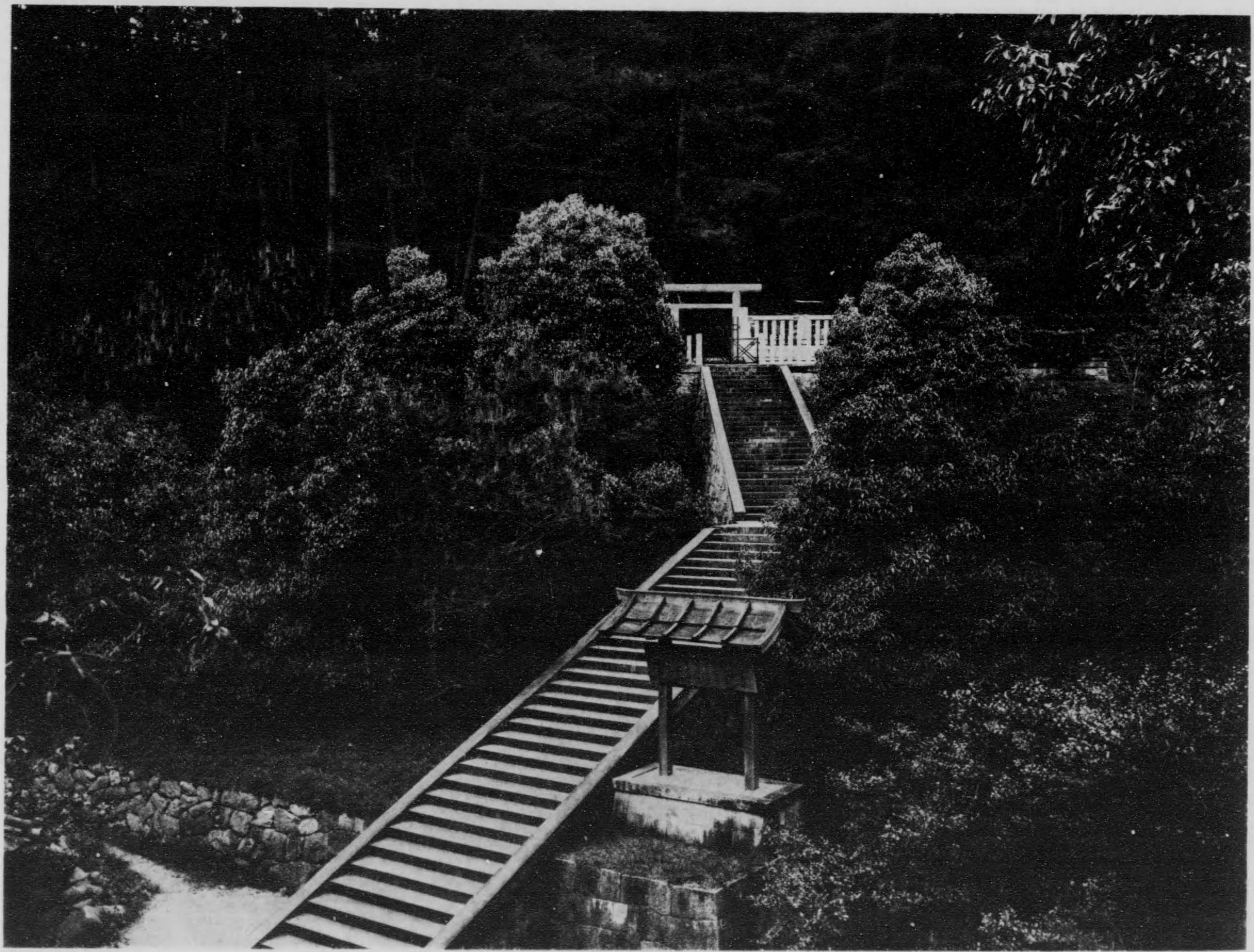
推古天皇^{第三十}御名は豊御食炊屋姫尊、初め額田部皇女といふ、欽明天皇の第三皇女、御母は皇太夫人蘇我堅鹽媛、欽明天皇十五年御降誕、敏達天皇五年三月皇后に立ち、崇峻天皇崩御の歲十二月、羣臣の請を許し、大和國豊浦宮に即位し給ふ、時に御年三十九、翌癸丑歲四月皇姪厩戸皇子を立て、皇太子となし、萬機を攝せしむ、癸亥歲十月、都を小墾田宮に遷し給ふ、在位三十六年、戊子歲三月七日^{太皇崩御}崩御、御年七十五、遺詔して宣はく、比年五穀登らず、百姓大に飢う、山陵を起し、以て厚く葬ることなく、竹田皇子の墓に葬るべしと、是に於て南庭に殯し、九月二十日羣臣始めて天皇の喪禮を行ひ、各殯宮に誅す、二十四日竹田皇子の墓に葬り奉る、追諡して推古天皇と申す、陵は初め大野崗上^{大野崗上}にありしを、後に科長大陵^{科長大陵}に遷されたり、陵は三壇に築きたる方墳にして、周圍に空陸を環らし、土手を築き、生垣を回らす、



押坂内陵

大和國磯城郡城島村大字忍坂字段ノ塚

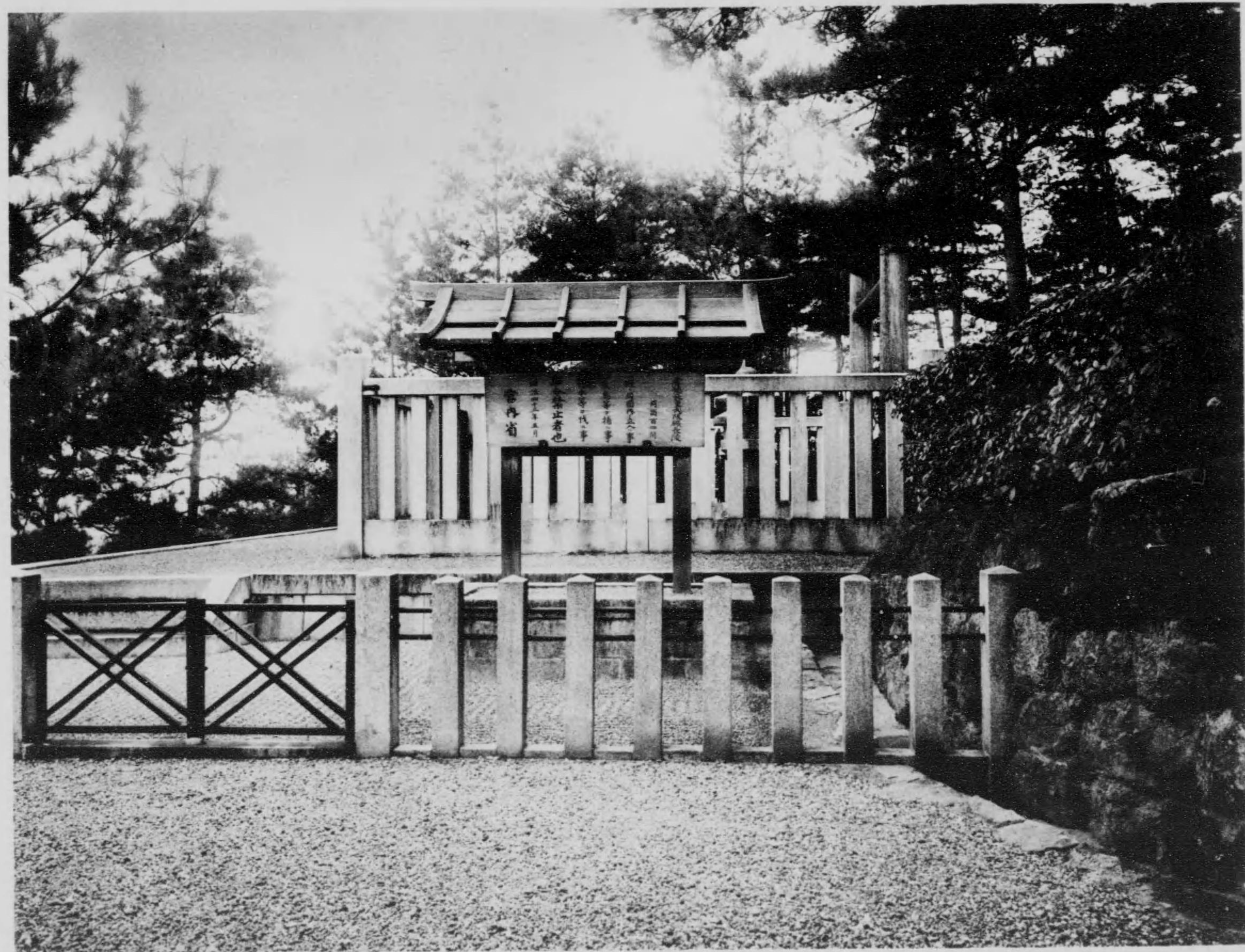
舒明天皇^{第四十代}御名は息長足日廣額尊初め田村皇子といふ敏達天皇の皇子押坂彦人大兄皇子の第一王子御母は妃糠手姫皇女推古天皇元年御降誕推古天皇崩御の翌己丑歲正月即位し給ふ時に御年三十七明年十月都を大和國飛鳥に遷し給ふ之を岡本宮と謂ふ丙申歲六月岡本宮炎上せるを以て田中宮に徙り己亥歲百濟の川上に宮を營ましめ翌庚子歲十月之に徙り給ふ百濟宮是れなり在位十三年辛丑歲十月九日^{太陽曆十一月二十一日}崩御御年四十九十八日宮の北に殯し明年十二月二十一日滑谷崗に葬り翌癸卯歲九月六日改めて押坂陵に葬り奉る追諡して舒明天皇と申す陵は上圓下方にして上圓は二壇下方は三壇に築く周圍に土手を築き生垣を回らす



大阪磯長陵

河内國南河内郡山田村大字山田字上ノ山

孝徳天皇第六十三代御名は天萬豐日尊初め輕皇子といふ、敏達天皇の皇子押坂彥人大兄皇子の御子茅渟王の第一王子、御母は妃吉備姫女王、推古天皇四年御降誕、乙巳歲六月皇極天皇の禪を受けて位に即き給ふ、時に御年五十、詔して、始めて元號を建て、是歲を以て大化元年となす、十二月都を難波長柄豐碕に遷し、三年小郡宮に徙り、白雉元年十月豐碕宮を修め、二年十二月之に徙り給ふ、五年十月十日太陽曆十一月十七日崩御、在位十年、御年五十九、南庭に殯し、十二月八日河内大坂磯長陵に葬り奉る、追諡して孝徳天皇と申す、陵は圓墳にして、周圍に生垣を回らす、

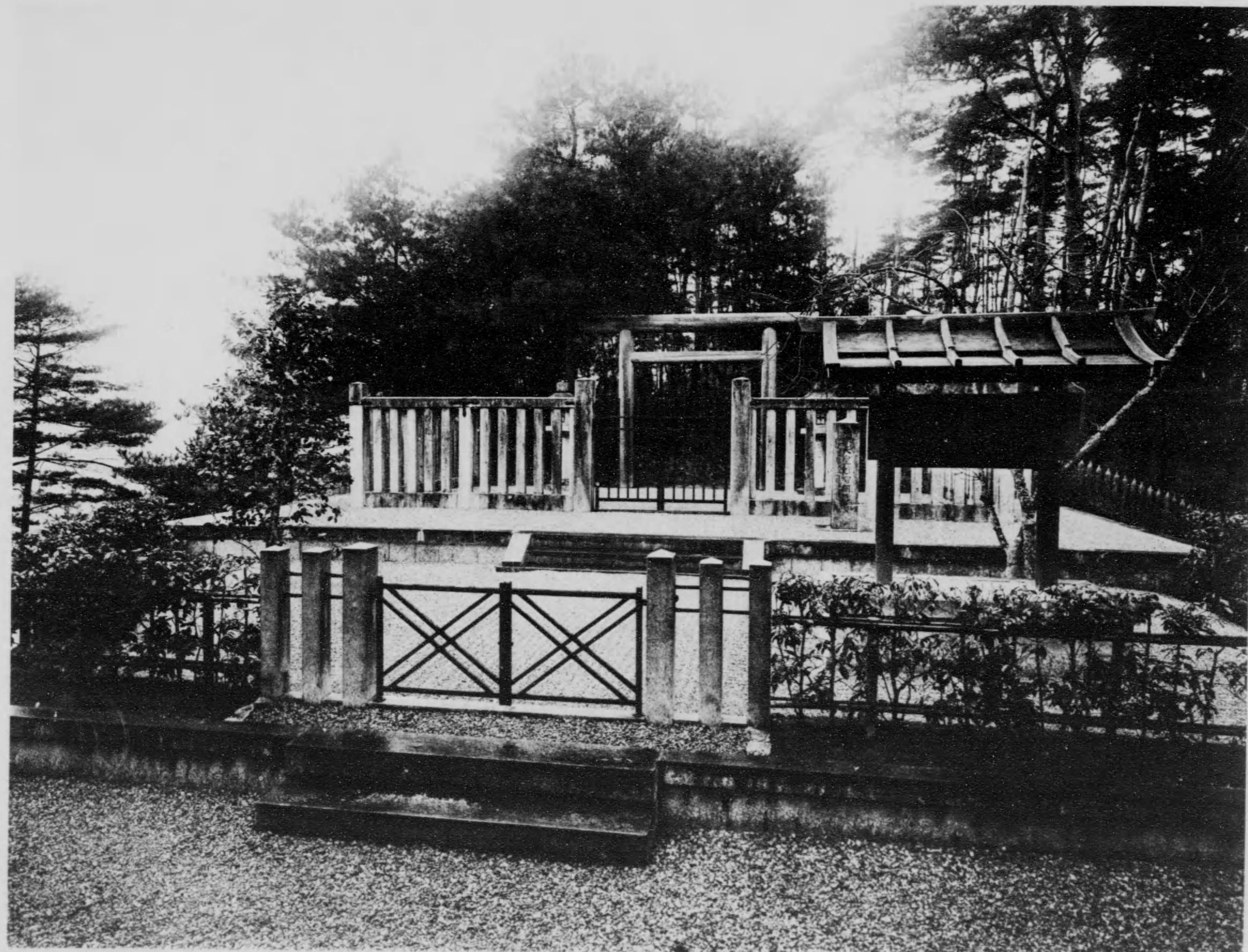


越智岡上陵

大和國高市郡越智岡村大字車木字天皇

皇極天皇第五十三重祚して齊明天皇第七十三と申す、御名は天豐財重日足姫尊、初め寶皇女といふ、敏達天皇の皇子押坂彥人大兄皇子の御子茅渟王の第一王女、御母は妃吉備姫女王、推古天皇二年御降誕、初め用明天皇の皇孫高向王の妃となり、後、舒明天皇の皇后となり、舒明天皇崩御の翌壬寅歲正月即位し給ふ、時に御年四十九十二月、權に小墾田宮に徙り、明年四月、飛鳥板蓋宮に徙り給ふ、在位四年、乙巳歲六月、位を孝德天皇に譲り給ふ、孝德天皇崩御の翌乙卯歲正月、再び飛鳥板蓋宮に即位し給ふ、時に御年六十二、是歲冬、板蓋宮炎上せるを以て、飛鳥川原宮に徙り給ふ、在位七年、白雉七年七月二十四日太閤曆八月二十七日、筑前國朝倉の行宮一に伊豫國に崩じ給ふ、御年六十八、八月一日、皇太子中大兄皇子天皇梓宮を奉じて筑前長津宮に抵り、十月七日、長津を發し、二十三日難波に抵り、十一月七日、飛鳥川原に殯し、後七年丁卯歲二月二十七日、小市岡上陵に葬り奉る、追諡して前朝を皇極天皇、後朝を齊明天皇と申す、陵は圓墳にして、周圍に生垣を回らす、

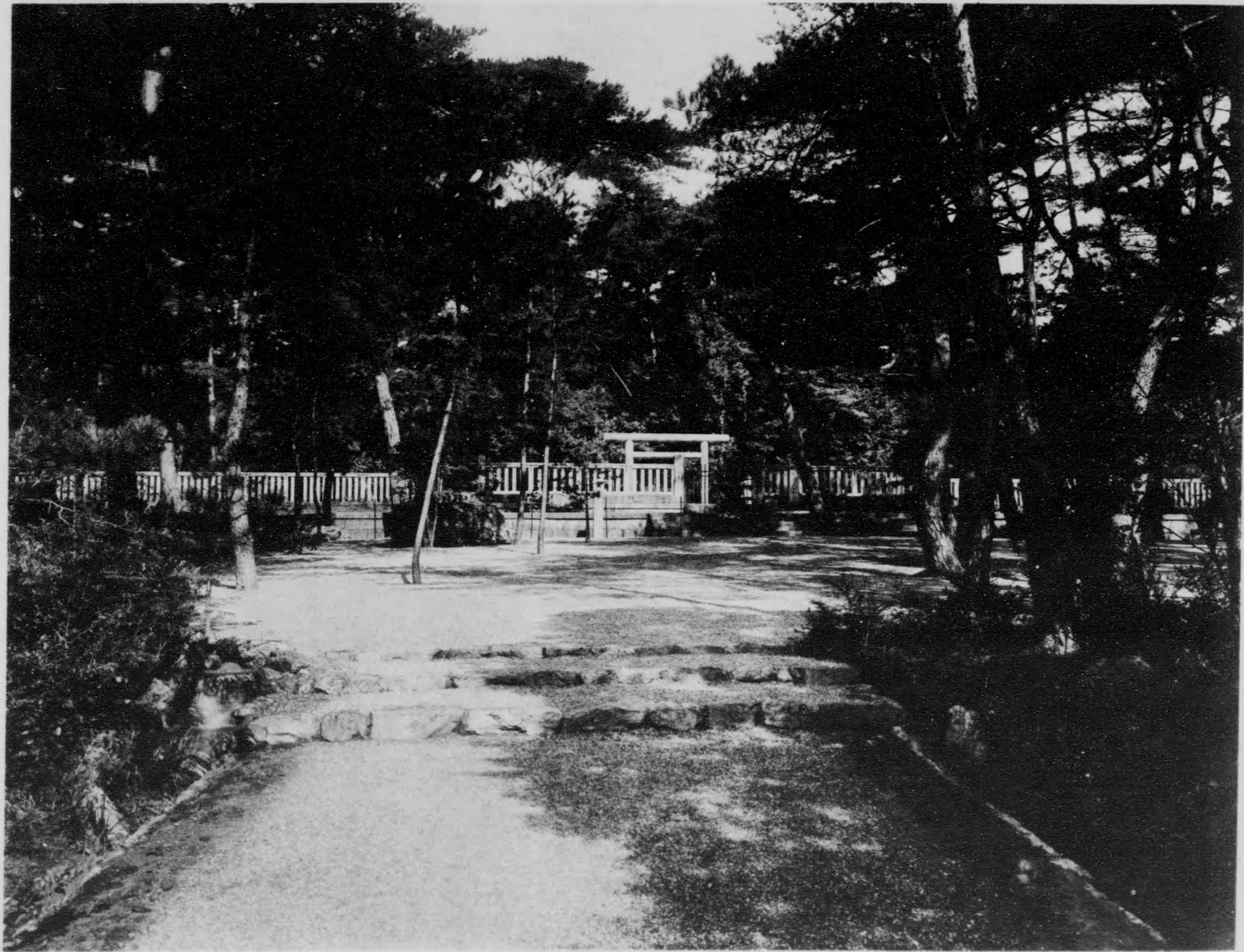
孝德天皇皇后間人皇女、舒明天皇の第一皇女、御母は皇極天皇、大化元年七月皇后に立ち給ふ、天智天皇乙丑歲二月二十五日曆太三陽九月崩御、後二年丁卯歲二月二十七日、齊明天皇の小市岡上陵に合葬し奉る、



山科陵

山城國宇治郡山科村大字御陵字上御廟野

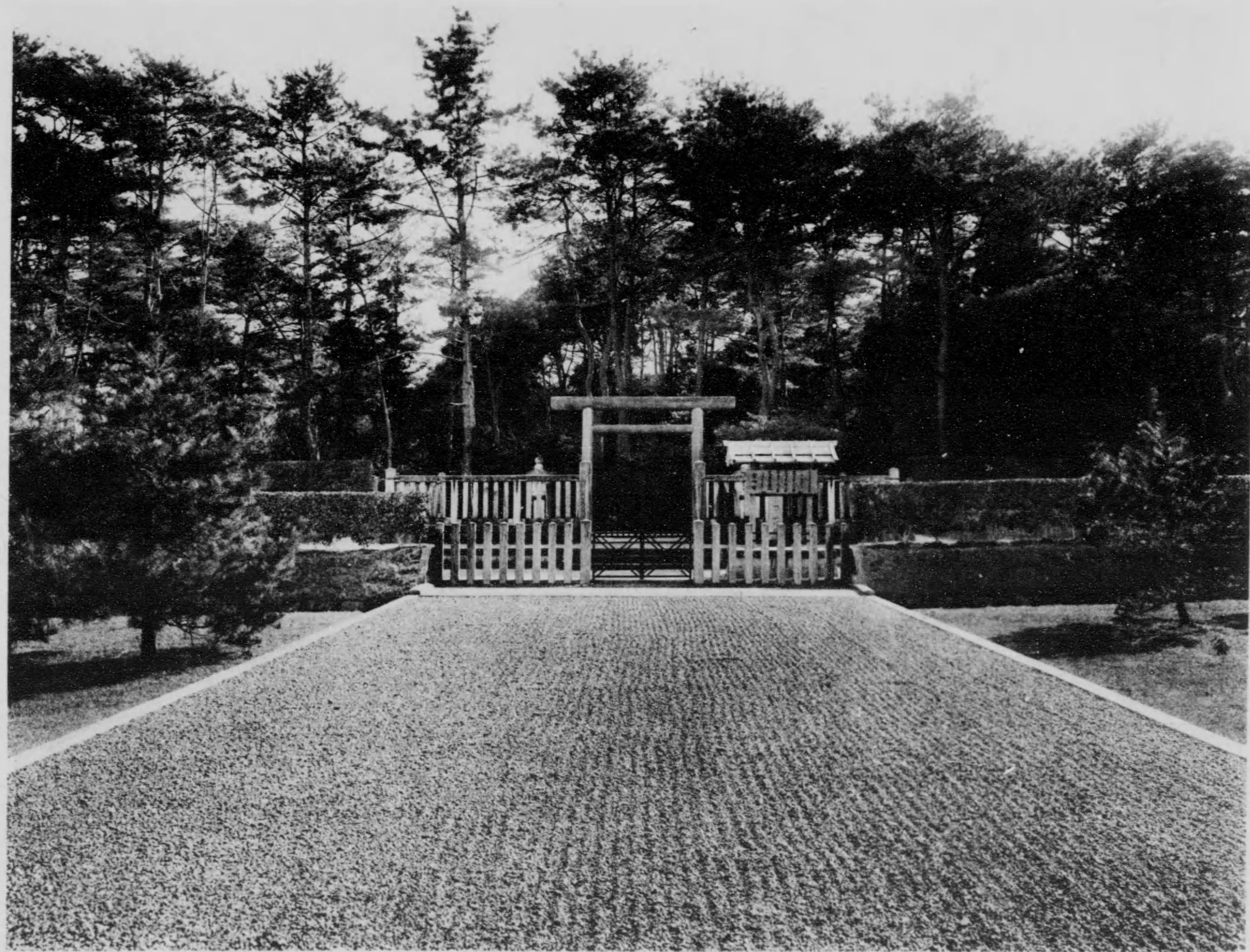
天智天皇第八代三十御名は天命開別尊、初め葛城皇子、又中大兄皇子といふ、舒明天皇の第一皇子、御母は皇極天皇推古天皇三十四年御降誕、乙巳歲六月孝德天皇即位の日皇太子に立ち、齊明天皇再祚の後仍皇太子となり、齊明天皇崩御の後、素服して制を稱し、尙位に即き給はざること六年、丁卯歲三月、都を近江國に遷し給ふ、近江大津宮是れなり、翌戊辰歲正月、即位し給ふ、時に御年四十三、治十年、辛未歲十二月三日大陽曆十月十一日崩御、御年四十六、十一日新宮に殯し、山背山科陵に葬り奉る、追諡して天智天皇と申す、陵は三壇に築きたる上圓下方にして、周圍に土手を築き、生垣を回らし、前面に石柵を建つ、



長等山前陵

近江國大津市別所字南淨慶

弘文天皇第九代三十御名は大友初め伊賀皇子といふ、天智天皇の第一皇子、御母は宮人伊賀宅子娘、大化四年御降誕、天智天皇五年辛未歲正月、太政大臣に任じ、十月皇太子に立ち給ふ、是歲十二月父天皇崩御に依り、大津宮に即位し給ふ、時に御年二十四、翌壬申歲六月二十三日八月二日冊暴に近江國山前に崩じ給ふ、在位八月、御年二十五、明治三年七月二十三日追諡して弘文天皇と申す、陵を長等山前陵と稱す、圓墳にして、周圍に空隍を環らし、土手を築き、生垣を回らす、

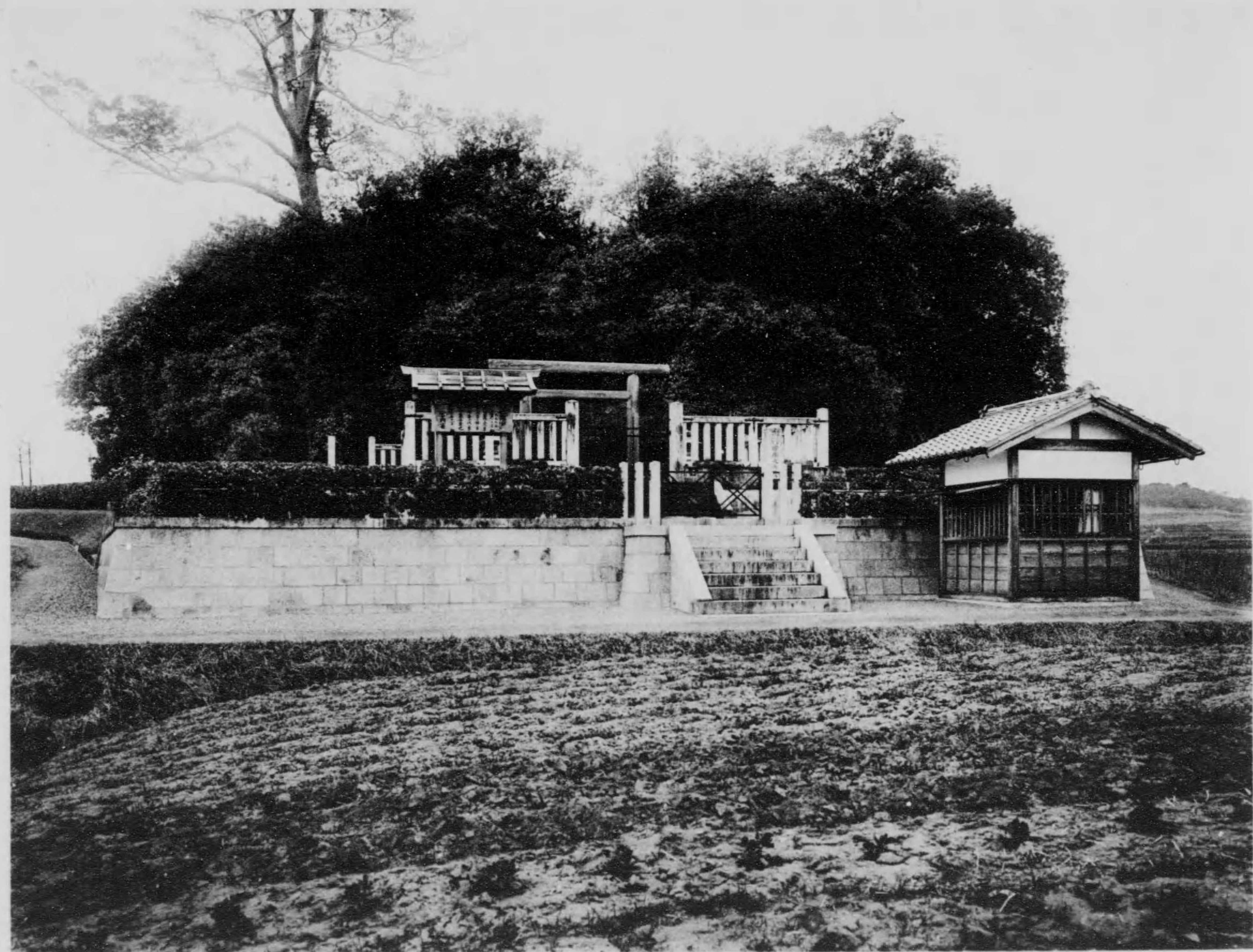


檜隈大内陵

大和國高市郡高市村大字野口字王墓

天武天皇^{第十代}御名は天淳中原瀛真人、初め大海人皇子といふ、舒明天皇の第三皇子、御母は皇極天皇、推古天皇三十年御降誕、辛未歲十一月、天智天皇不豫、後事を天皇に囑し給ふ、天皇固辭して承けず、僧となりて吉野に入り給ふ、翌壬申歲六月、弘文天皇近江國山前に崩じ給ふや、九月、倭京に至り、島宮におはしまし、岡本宮に徙り、尋で飛鳥淨見原宮に徙り、癸酉歲二月即位し給ふ、時に御年五十二、在位十四年、朱鳥元年九月九日^{太陽曆十月四日}崩御、御年六十五、二十四日南庭に殯し、後二年持統天皇二年十一月十一日大内陵に葬り奉る、追諡して天武天皇と申す、

持統天皇^{第四十代}御名は高天原廣野姬、初め鷓野讚良皇女といふ、天智天皇の第三皇女、御母は嬪蘇我遠智娘、大化元年御降誕、齊明天皇三年、天武天皇未だ皇子におはします時入りて妃となり、天皇即位の日、皇后に立ち給ふ、朱鳥元年九月、天皇崩じ給ふや、皇太子草壁皇子尙幼冲におはしますを以て、權に朝に臨みて、制を稱し給ひしが、三年四月、皇太子薨じ給へるを以て、羣臣の請を許し、四年正月即位し給ふ、時に御年四十六、治十一年、丁酉歲八月位を文武天皇に譲り、大寶二年十二月二十二日^{太陽曆十一月十七日}崩じ給ふ、御年五十八、遺詔して、素服哀を擧ぐることを停め、文武百官事を視る常の如く、喪葬の儀務めて儉約に従はしむ、二十九日、西殿に殯し、三年十二月十七日飛鳥岡に火葬し、二十六日天武天皇の大内陵に合葬し奉る、追諡して持統天皇と申す、陵は圓墳にして、周圍に生垣を回らす、



眞弓丘陵

大和國高市郡越智岡村大字森字森谷

岡宮天皇、御名は草壁天武天皇の第三皇子、御母は持統

天皇、天智天皇壬戌歲、大津宮に生れ給ふ、天武天皇九年

二月皇太子に立ち、父天皇崩御の後、持統天皇登祚し給

(49)

ふや、仍皇太子たりしが、持統天皇三年四月十三日

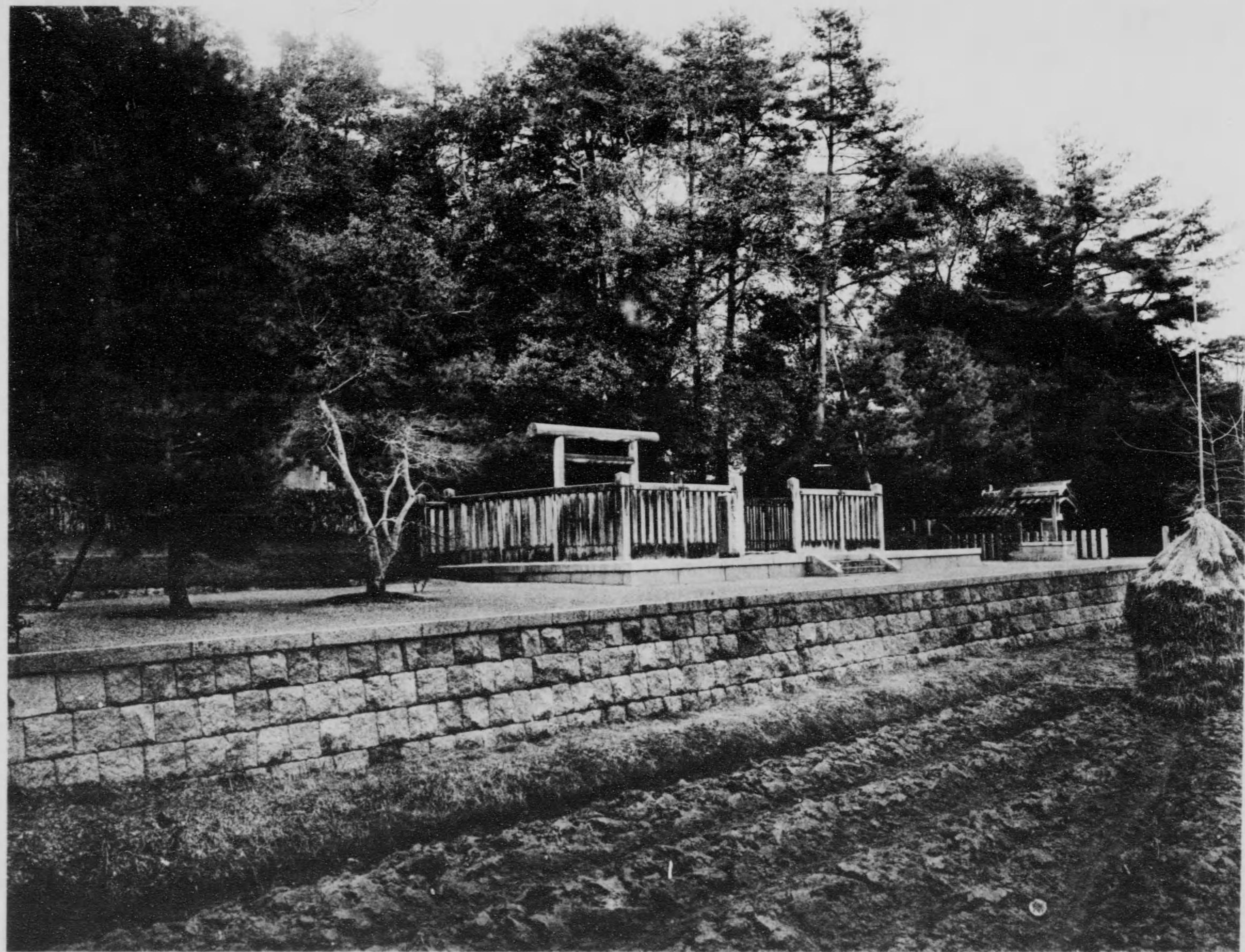
曆太
五陽

日日薨じ給ふ、御年二十八、新羅使を遣して喪を弔せし

む、二十日眞弓丘に葬り、日竝知皇子尊と申す、慶雲四年

四月、詔して國忌を置き、天平寶字二年八月、追尊して岡

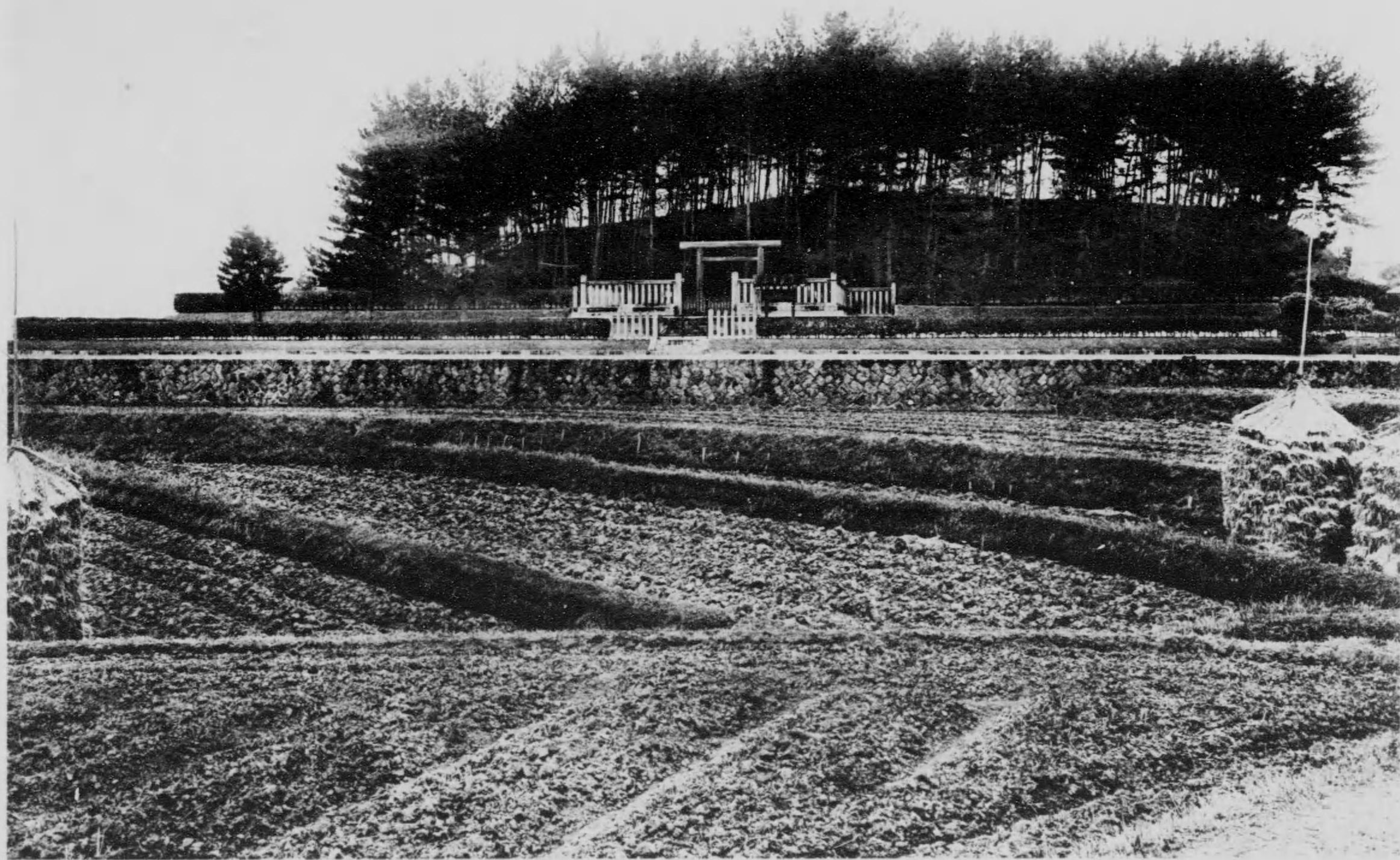
宮天皇と申す、陵は圓墳にして、周圍に生垣を回らす、



檜隈安古岡上陵

大和國高市郡阪合村大字栗原字塚穴

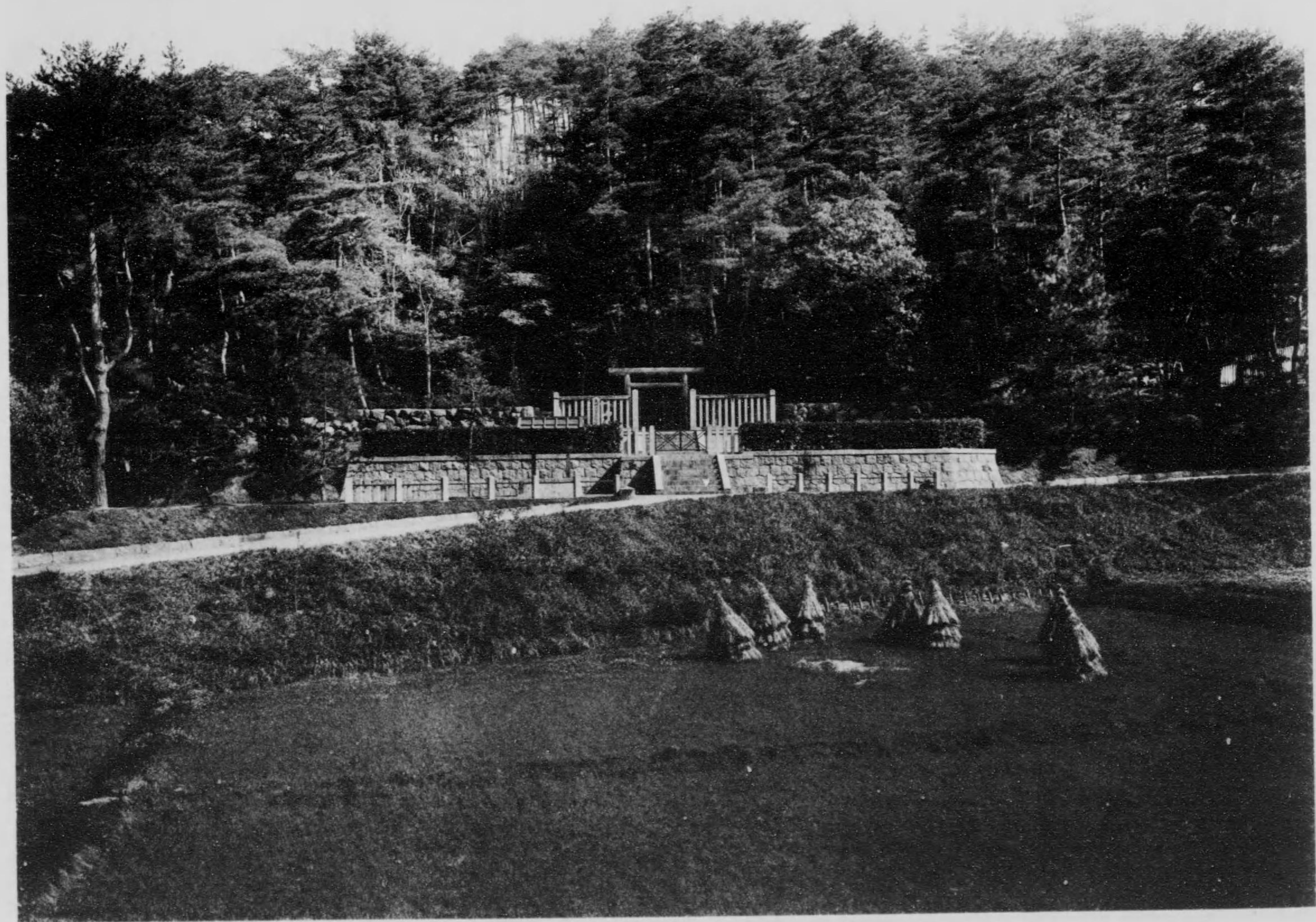
文武天皇第二十四御名は天之眞宗豐祖父初め珂瑠王といふ、天武天皇の皇子草壁皇太子天宮の第一王子、御母は元明天皇、天武天皇十一年御降誕、持統天皇丁酉歲二月皇太子に立ち、八月持統天皇の禪を受けて大和國藤原宮に即位し給ふ、時に御年十五、在位十一年、慶雲四年六月十五日太陽二曆七月崩御、御年二十五、遺詔して、哀を擧ぐること三日、凶服一月を限る、十一月十二日飛鳥岡に火葬し、二十日檜隈安古山陵に葬り奉る、追諡して文武天皇と申す、陵は山形にして、周圍に生垣を回らす、



奈保山東陵

大和國奈良市奈良阪町字養老ヶ峯

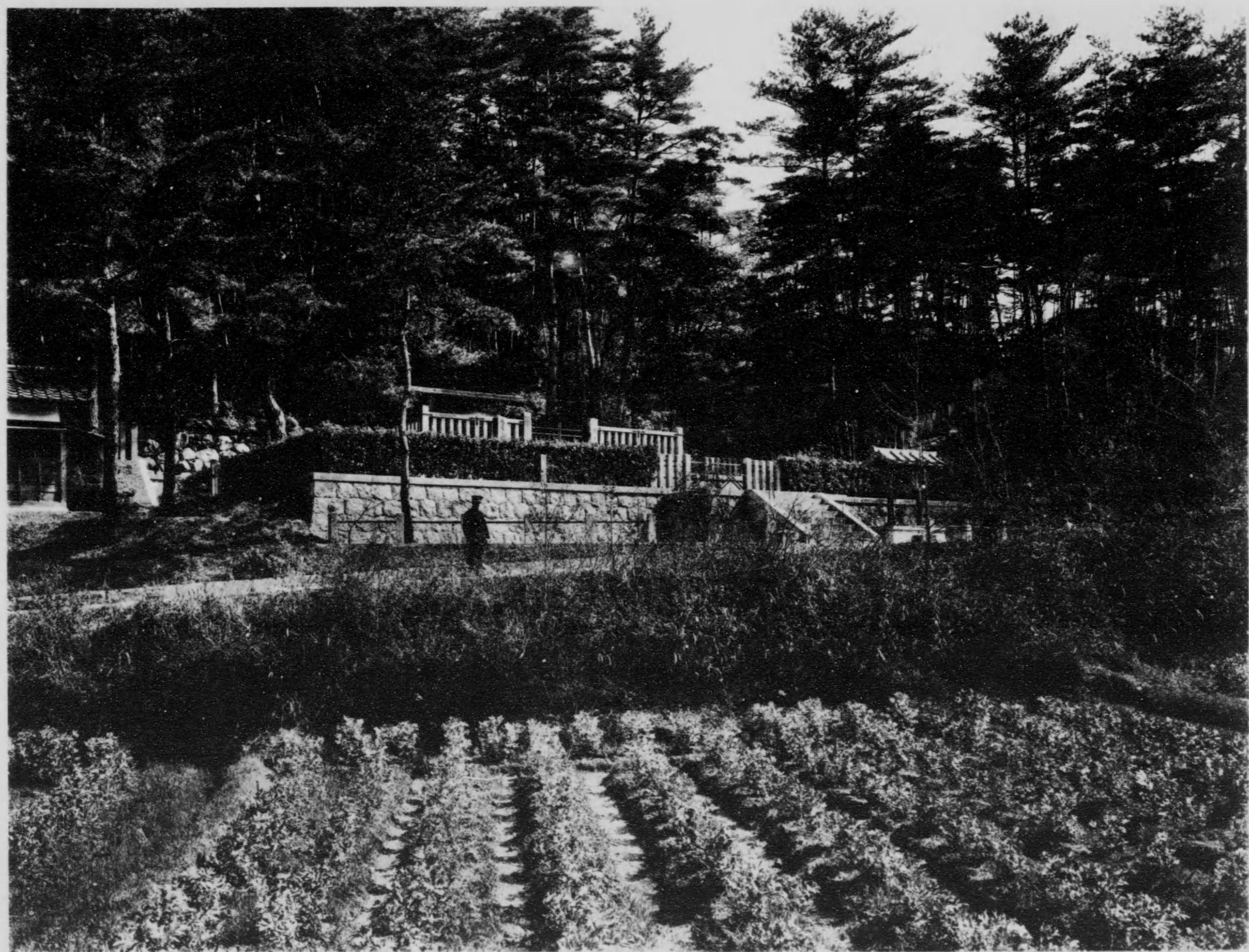
元明天皇^{三十四}御名は日本根子天津御代豐國成姫初め阿閉皇女といふ、天智天皇の第四皇女、御母は嬪蘇我姪娘、白雉七年御降誕、草壁皇太子^{天宮}の妃にして、文武元正二帝の御母なり、慶雲四年六月、文武天皇崩じ給ふや、遺詔に依りて萬機を攝し、七月大極殿に即位し給ふ、時に御年四十七、天皇初め藤原宮におはしまししが、和銅元年二月、詔して平城遷都の事を決し、經營二年餘、三年三月、都を平城に遷し給ふ、爾來光仁天皇に至るまで七朝の帝都たりし平城宮是れなり、在位九年、靈龜元年九月、位を元正天皇に譲り、養老五年十二月七日^{太閤曆二月二日}崩じ給ふ、御年六十一、遺詔して宣はく、葬を厚くして業を破り、服を重くして生を傷るは、朕甚だ取らず、朕崩するの後は、藏寶山の雍良岑に窳を造りて火葬すべし、又皇帝は萬機を綜理すること、一に平日に同じく、王侯卿相文武百官は喪車に隨從することなく、事を視る常の如くせよと、又宣はく、輜車靈駕に金玉を鏤め丹青を飾らず、又、葬地には常葉の樹を植ゑ、刻字の碑を立てよと、十三日大和國添上郡推山陵に葬り奉る、追諡して元明天皇と申す、陵は山形にして石碑を立て、周圍に木柵を回らす、碑文に、大倭國添上郡平城之宮、馭宇八洲、太上天皇之陵、是其所也、養老五年歲次辛酉、冬十二月癸酉朔十三日乙酉葬とあり、



奈保山西陵

大和國奈良市奈良阪町字辨財天山

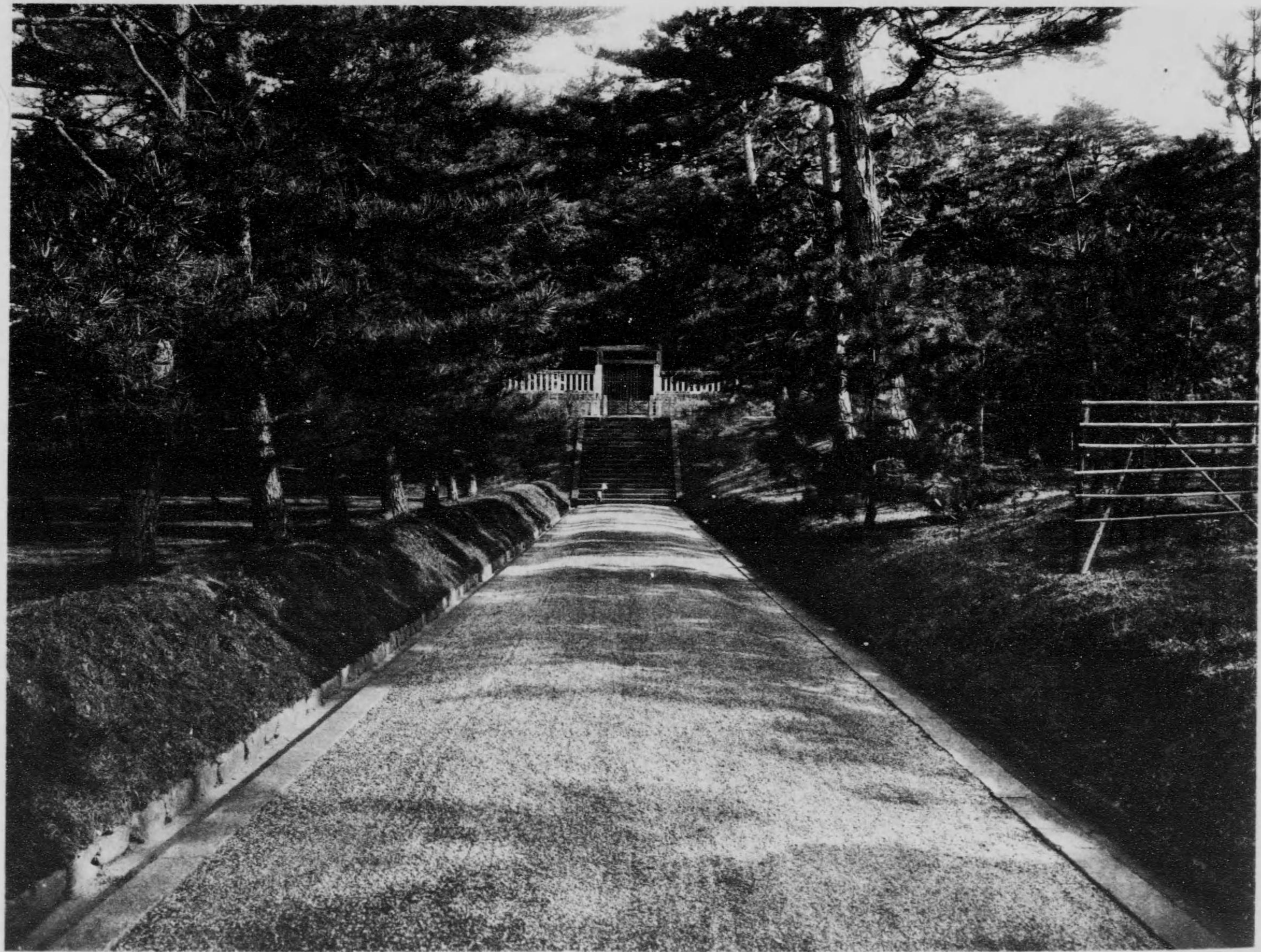
元正天皇第四十御名は氷高、又、日本根子高瑞淨足姫といふ、天武天皇の皇子草壁皇太子天闕宮の第一王女、御母は元明天皇、天武天皇八年御降誕、靈龜元年九月、元明天皇の禪を受けて大極殿に即位し給ふ、時に御年三十六、在位九年、神龜元年二月、位を聖武天皇に譲り、天平二十年四月二十一日太陽曆五月崩じ給ふ、御年六十九、天下に勅して、哀を擧げしむること三日、二十八日佐保山陵ヤノノ山に火葬し、後二年天平勝寶二年十月十八日改めて奈保山陵ナホノ山に葬り奉る、追諡して元正天皇と申す、陵は山形にして、周圍に石柵を回らす、



佐保山南陵

大和國添上郡佐保村大字法蓮字北畑

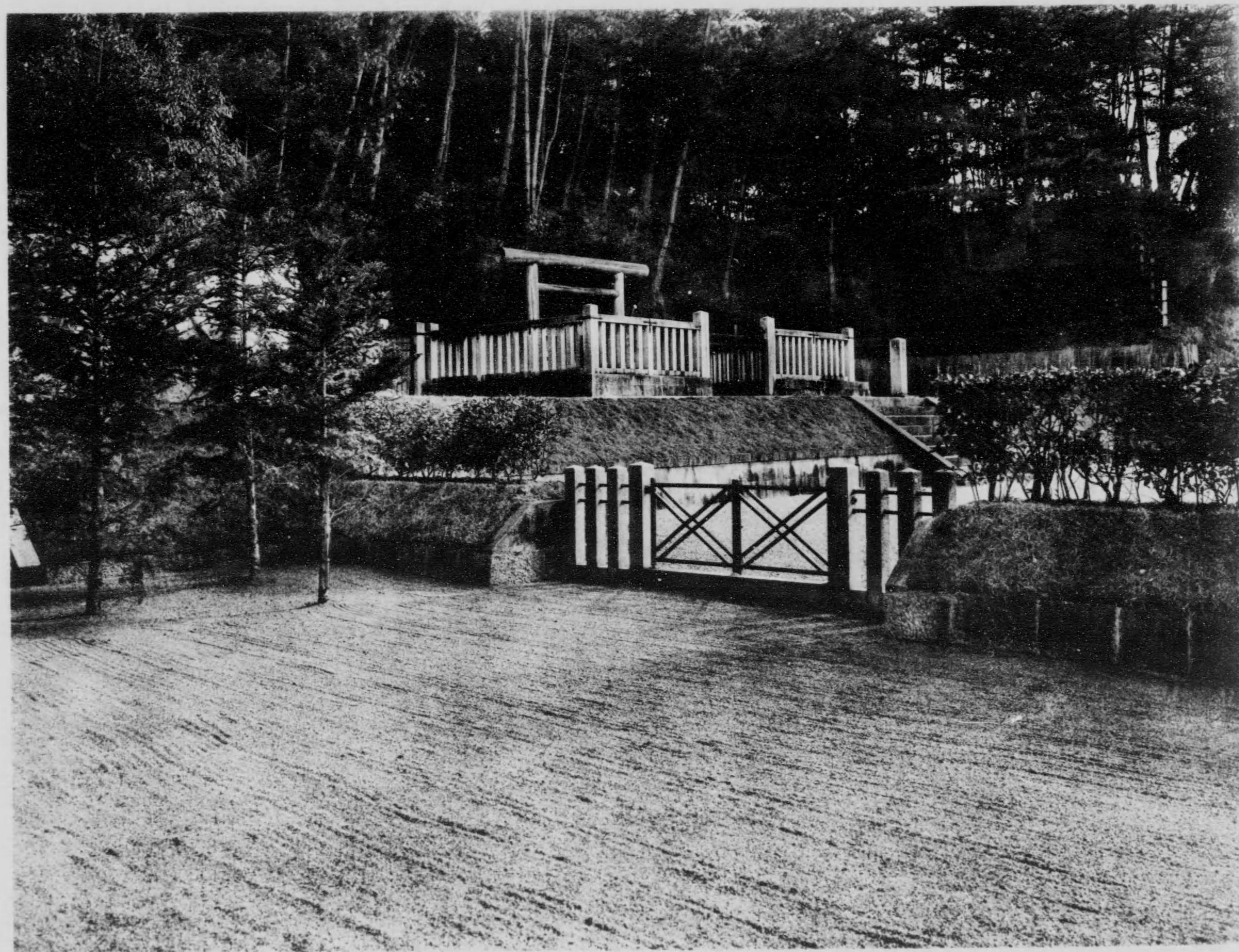
聖武天皇第五十四代御名は首文武天皇の第一皇子、御母は皇太夫人藤原宮子娘、大寶元年御降誕、和銅七年六月皇太子に立ち、神龜元年二月、元正天皇の禪を受けて大極殿に即位し給ふ、時に御年三十一、在位二十六年、天平勝寶元年七月、位を孝謙天皇に譲り、入道して沙彌勝滿と號し、八年五月三日太陽曆六月七日崩じ給ふ、御年五十六、二十日佐保山南陵に葬り奉る、葬儀に師子座、香天子座、金輪幢、大寶幢、香幢、花縵、蓋繖等を用ゐる、一に佛に奉ずるが如く、笛人をして行道の曲を奏せしむ、天平寶字二年八月、追諡して勝寶感神聖武皇帝と申し、後、追諡して聖武天皇と申す、陵は山形にして、周圍に木柵を回らす、



佐保山東陵

大和國添上郡佐保村大字法蓮字多門山

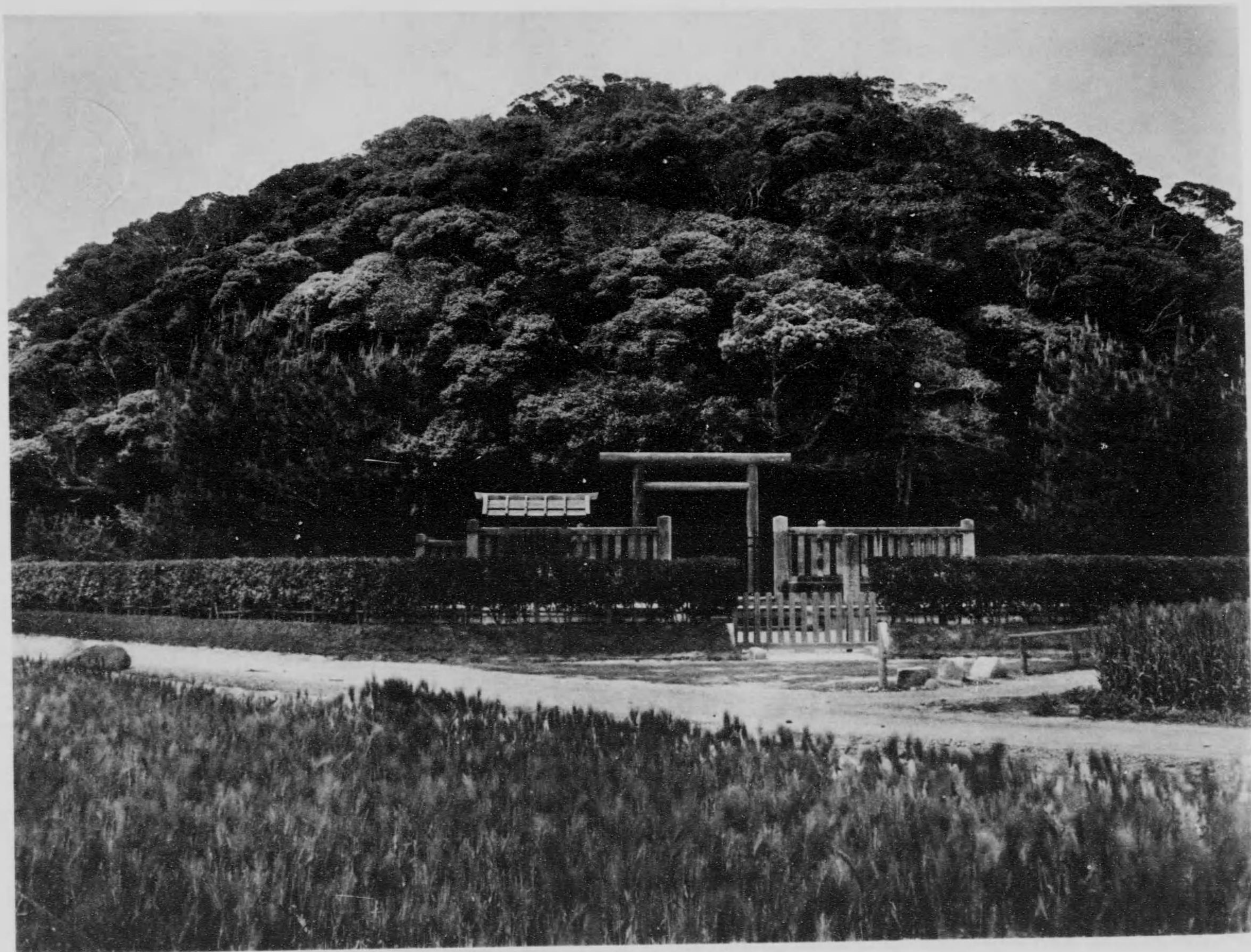
聖武天皇皇后光明子安宿媛贈太政大臣正一位藤原不比等の第三女、御母は贈正一位大夫人縣犬養橘三千代、大寶元年御誕生、靈龜二年、聖武天皇未だ儲貳におはし、ます時入りて妃となり給ふ、時に御年十六、神龜元年天皇位に即き給ふや、夫人となり、天平元年八月十日皇后に立ち給ふ、天平勝寶元年孝謙天皇受禪し給ふや、尊びて皇太后と稱し給ふ、天平寶字二年八月淳仁天皇即位の日、百官及僧綱上表して、中臺天平應眞仁正皇太后と申す、四年六月七日太陽曆七月十七日崩御、御年六十、大和國添上郡佐保山に葬り奉る、天下哀を擧ぐる、こと三日、服期三日、十二月十二日勅して御墓を山陵と稱し、國忌を置く、陵は山形にして、周圍に木柵竝に埒垣を回らす、



淡路陵

淡路國三原郡賀集村大字賀集字賀集組

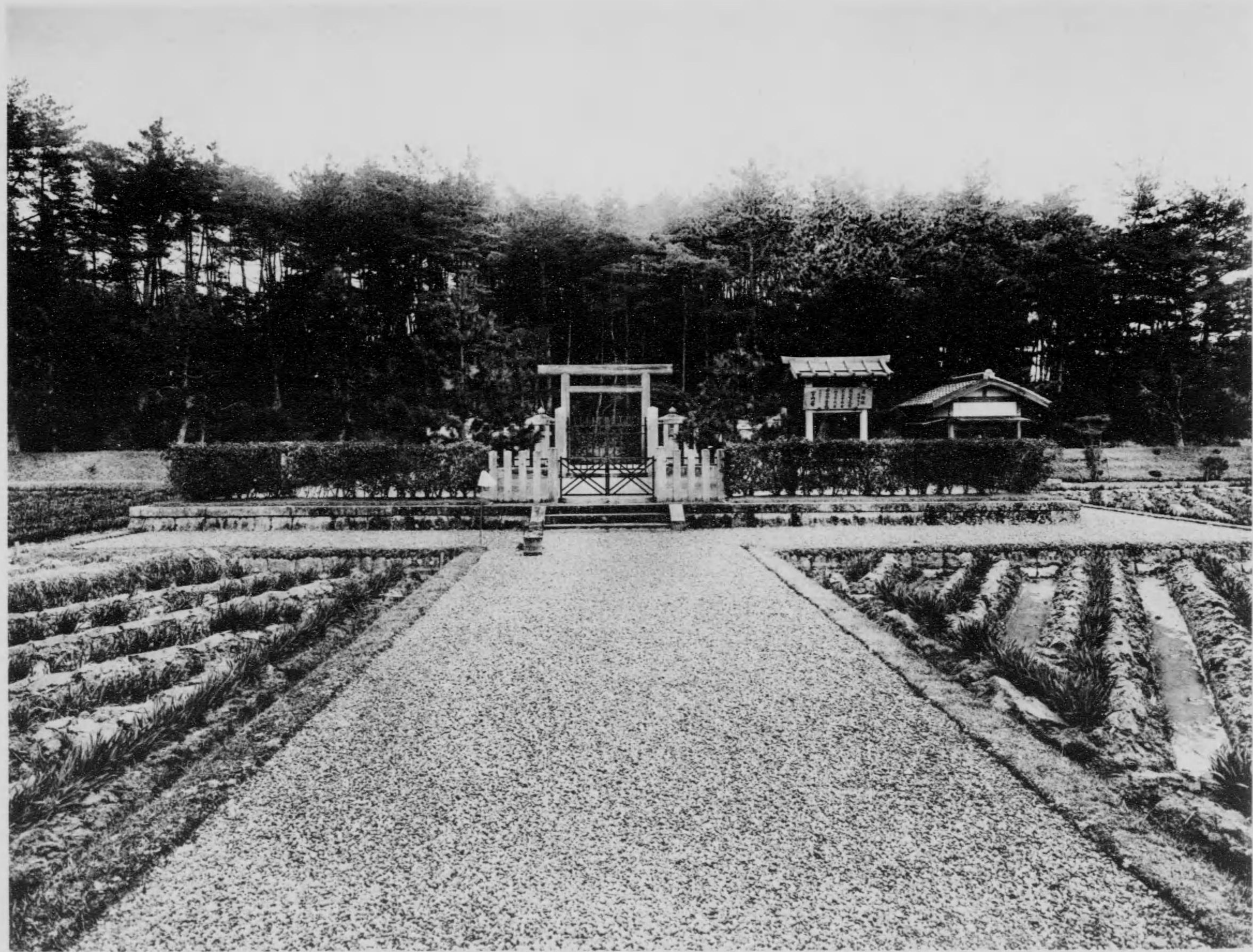
淳仁天皇第七十四代御名は大炊天武天皇の皇子舍人親王道崇
皇敬の第七王子、御母は當麻山背、天平五年御降誕、天平寶
字元年四月、皇太子に立ち、二年八月、孝謙天皇の禪を受
けて大極殿に即位し給ふ、時に御年二十六、在位六年、天
平寶字八年十月、太上天皇謙孝の爲に廢せられて淡路公
となり、淡路に配流せられ、天平神護元年十月二十三日
太陽曆十一月十四日配所に崩じ給ふ、御年三十三、世に淡路廢帝と申
す、寶龜三年八月十八日、光仁天皇、三方王等を淡路に遣
して改葬せしめ、九年三月二十三日、勅して、御墓を山陵
と稱す、明治三年七月二十三日追諡して淳仁天皇と申
す、陵は山形にして、周圍に陸を環らし、土手を築く、



高野陵

大和國生駒郡平城村大字山陵字御陵前

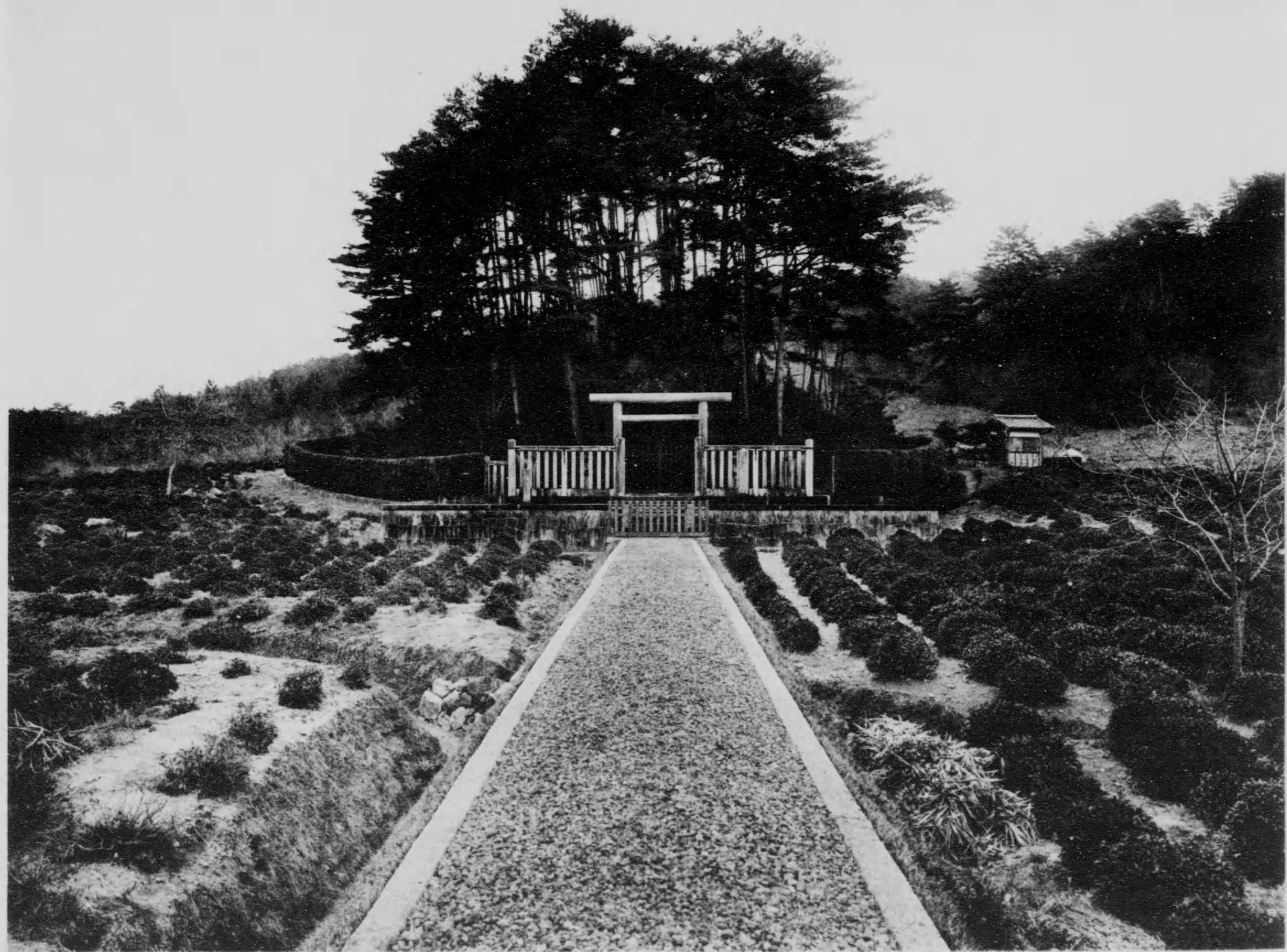
孝謙天皇第六十四代重祚して稱徳天皇第八十四代と申す、御名は阿倍、
聖武天皇の第二皇女、御母は皇太后光明子安宿媛、養老
二年御降誕、天平十年正月皇太子に立ち、天平勝寶元年
七月禪を受けて大極殿に即位し給ふ、時に御年三十五、
在位九年、天平寶字二年八月、位を淳仁天皇に譲り給ふ、
羣臣尊號を上りて、上臺寶字稱徳孝謙皇帝と申す、八年
十月、淳仁天皇を廢して、再び位に即き給ふ、在位六年、寶
龜元年八月四日太陽曆九月一日崩御、御年五十三、十七日大和國
添下郡佐貴郷高野山陵に葬り奉る、世に高野天皇と稱
し、追諡して、前朝を孝謙天皇、後朝を稱徳天皇と申す、陵
は山形にして、周圍に陸を環らし、土手を築き、生垣を回
らす、



田原西陵

大和國添上郡田原村大字矢田原字西山

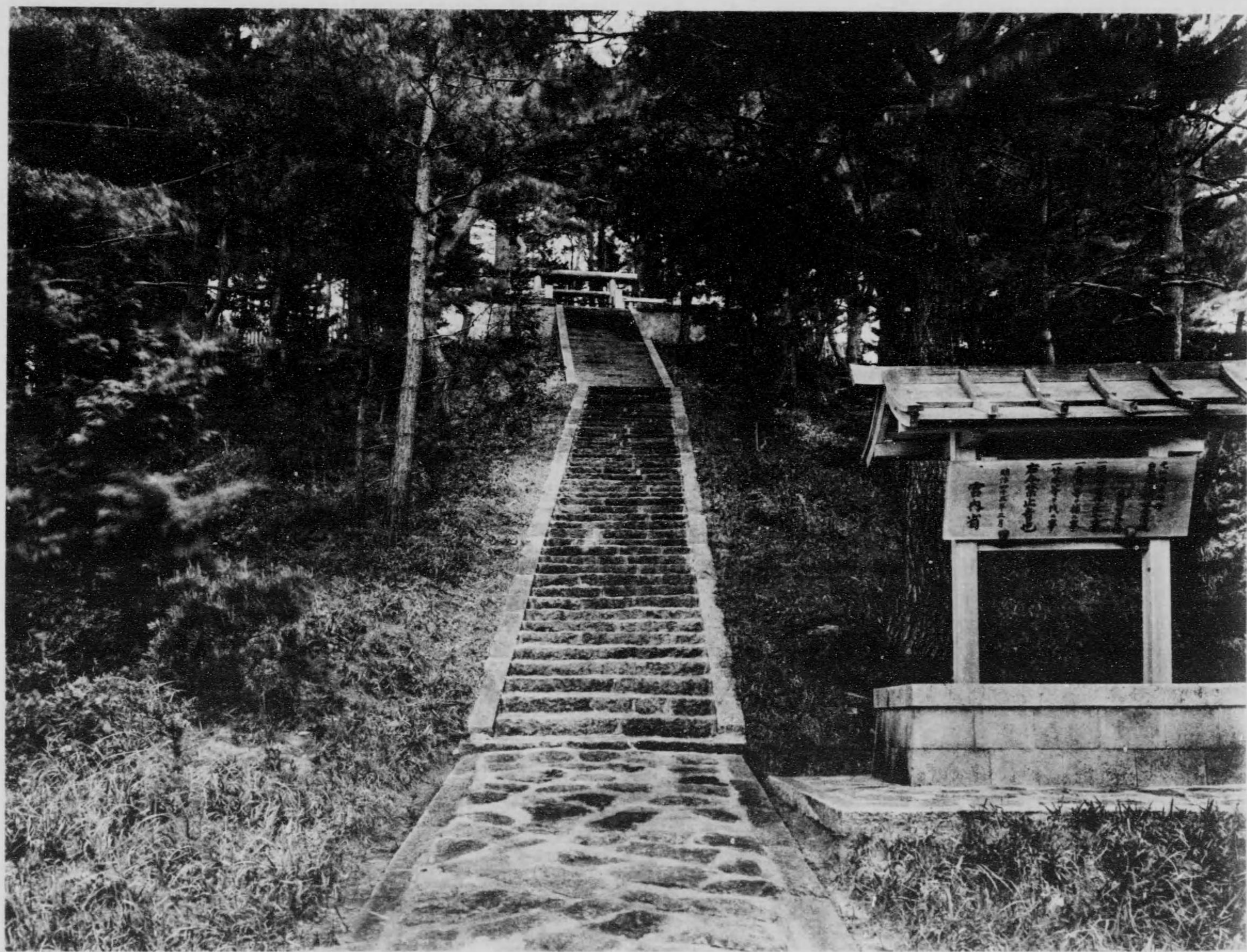
春日宮天皇御名は施基、天智天皇の第四皇子、御母は伊良都賣、文武天皇の朝親王となり、靈龜元年二品に敘し、二年八月九日太月陽五 日曆九薨じ給ふ、大和國田原に葬り奉る、田原天皇と申す、寶龜元年十一月六日、追尊して春日宮天皇と稱し、御墓を山陵に列し、二年五月二十七日國忌を川原寺に置く、陵は圓墳にして、周圍に土手を築き、生垣を回らす、



吉隱陵

大和國磯城郡初瀬町大字角柄字國木山

春日宮天皇妃贈皇太后櫛姫、贈太政大臣紀諸人の女なり、薨去の年を詳にせず、寶龜二年十二月十五日、追尊して皇太后となし、御墓を山陵に列し、國忌を置く、陵は圓墳にして、周圍に生垣を回らす、



田原東陵

大和國添上郡田原村大字日笠字王ノ塚

光仁天皇第九代御名は白壁、天智天皇の皇子施基親王宮春日

の第五王子、御母は妃贈皇太后椽姫、和銅二年十月十

三日御降誕、天平九年九月、從四位下に敘し、累進して正

三位に進み、天平神護元年正月勳二等を授けられ、二年

正月大納言となり給ふ、寶龜元年八月、稱徳天皇崩じて

皇嗣未だ定まらず、從四位上藤原百川左大臣藤原永手、

右大臣吉備眞備等と策を定め、遺詔と稱し、天皇を奉じ

て皇太子となす、十月天皇大極殿に即位し給ふ、時に御

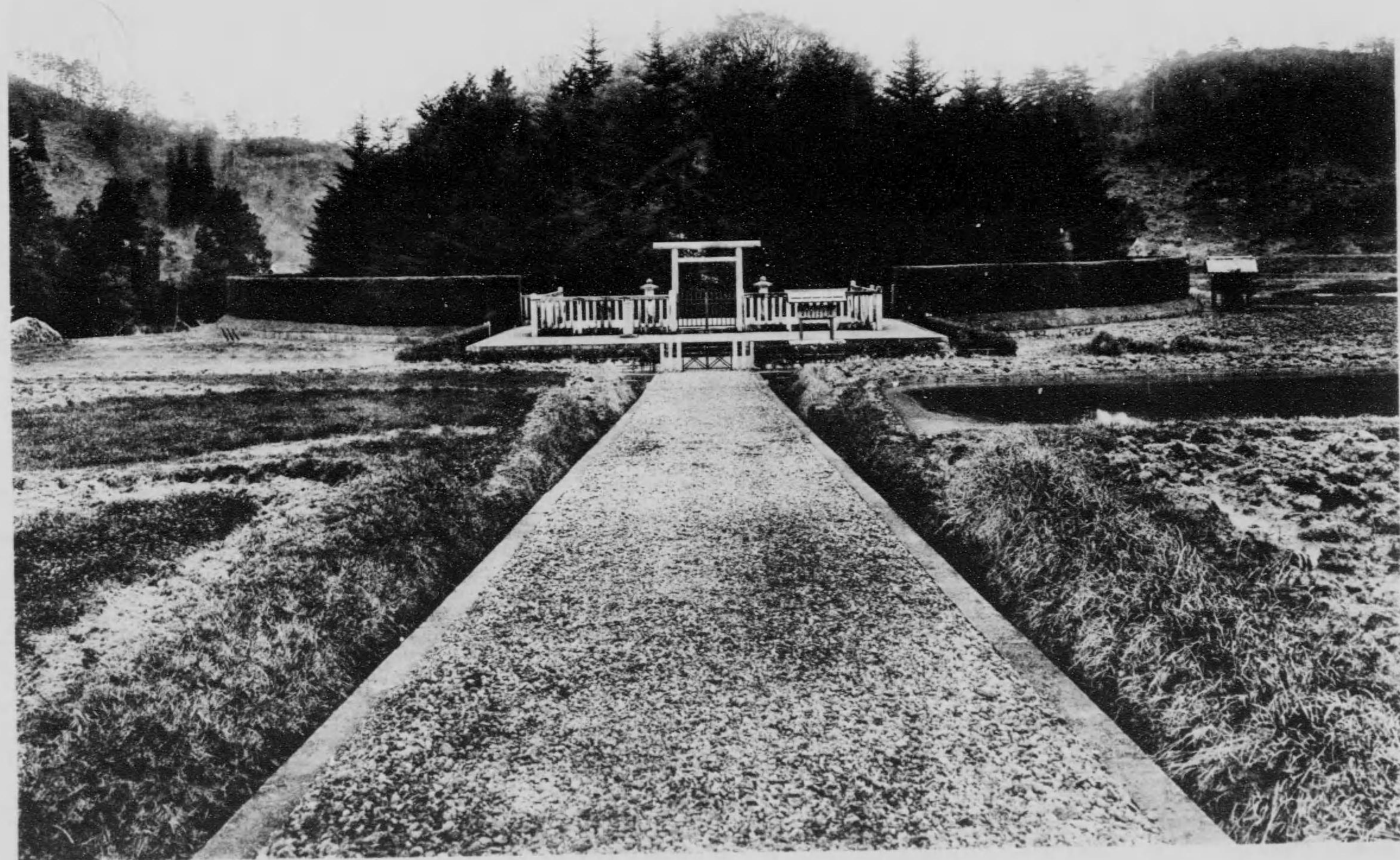
年六十二、在位十一年、天應元年四月、位を桓武天皇に讓

り、十二月二十三日太陽曆十一月十五日崩じ給ふ、御年七十三、延暦元

年正月七日、廣岡山陵廣岡山に葬り、五年十月二十八日、改めて

田原陵田原に葬り奉る、謚して光仁天皇と申す、陵は圓墳に

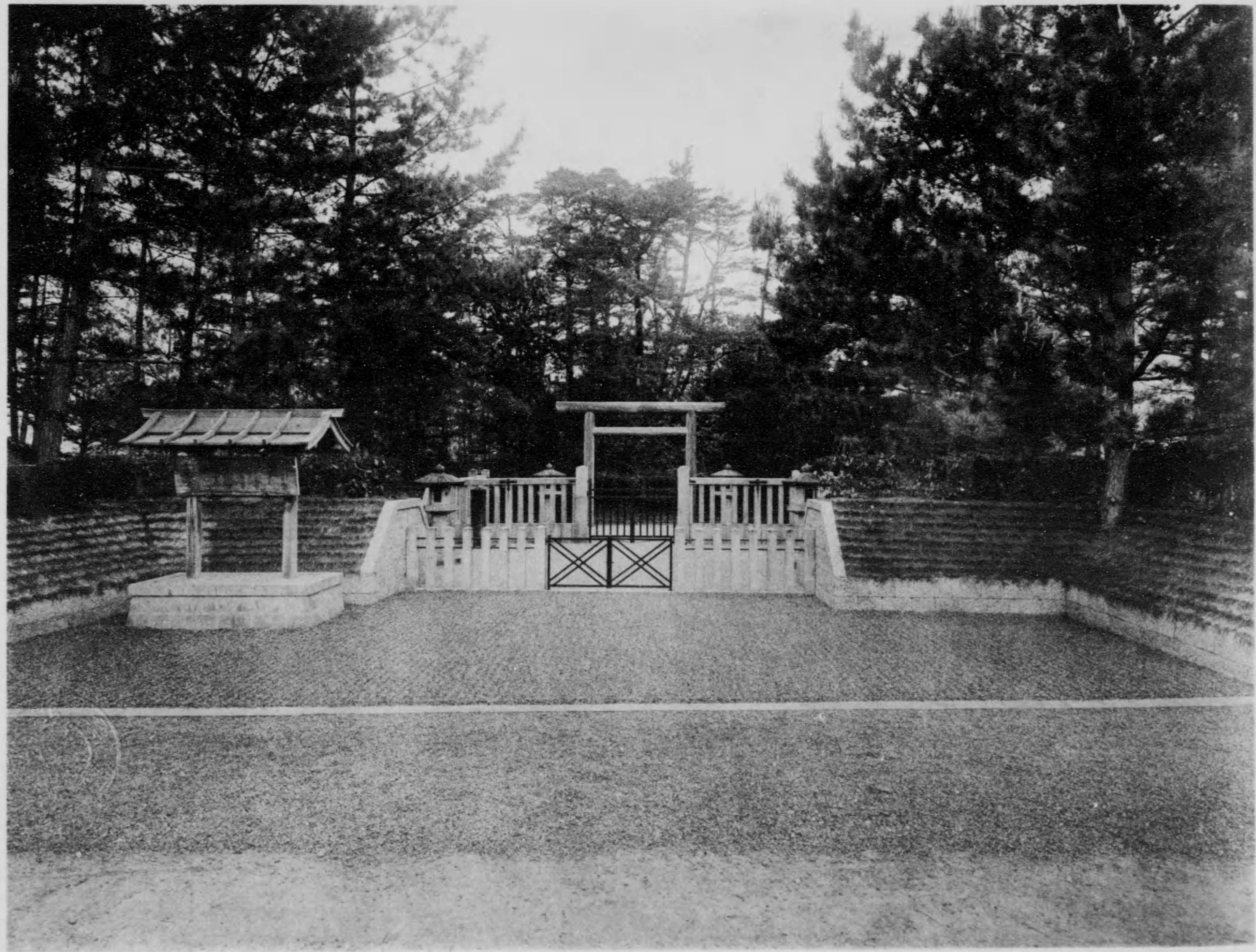
して、周圍に空隍を環らし、生垣を回らす、



宇智陵

大和國宇智郡南宇智村大字御山字サイノ

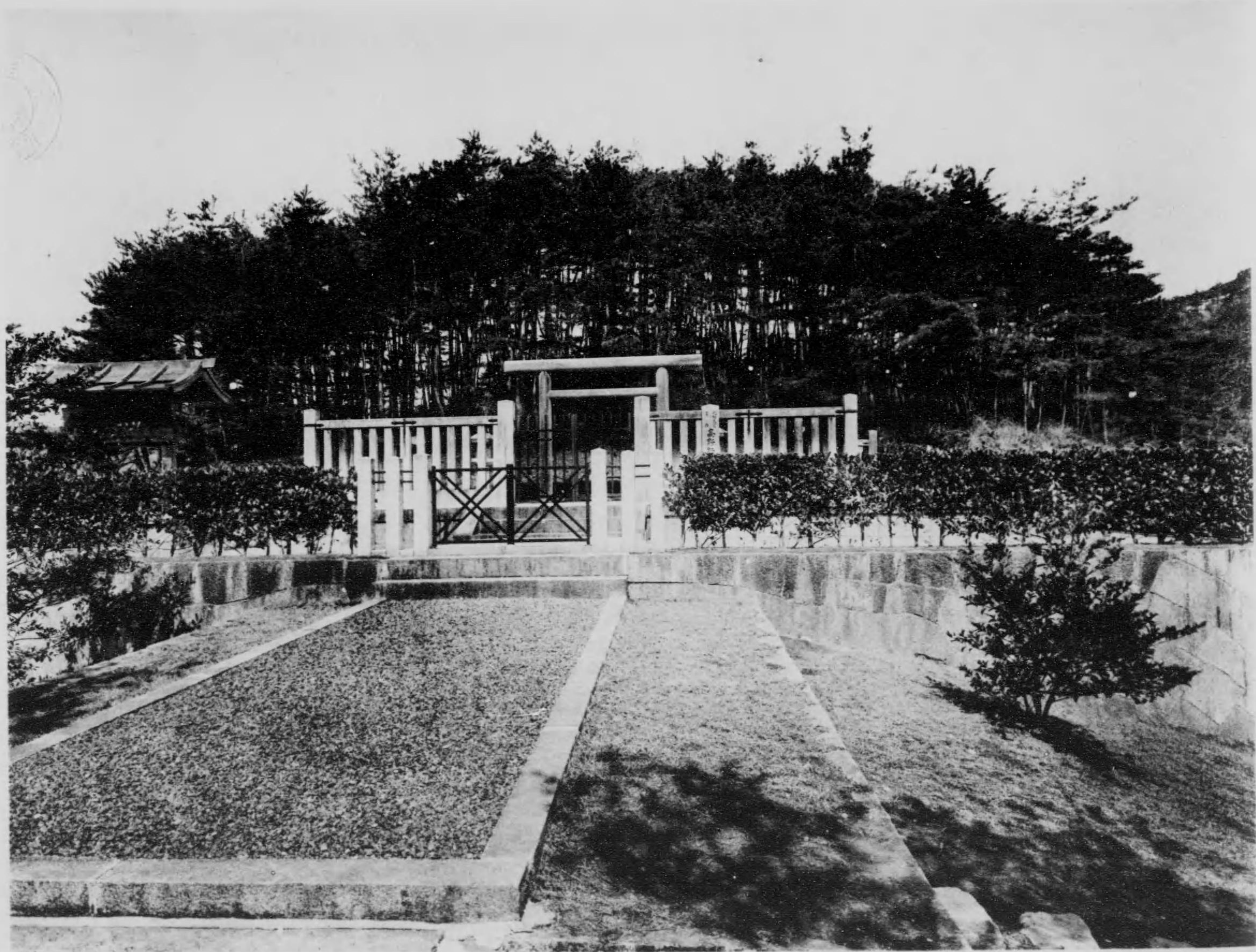
光仁天皇皇后井上内親王、聖武天皇の第一皇女、御母は
夫人縣犬養廣刀自、養老五年九月齋内親王となり、神龜
四年九月三日伊勢に赴きて太神宮に侍し、天平十九年
二品に敘す、光仁天皇未だ諸王におはします時入りて
妃となり、寶龜元年十一月皇后に立ち給ふ、三年三月、巫
蠱の事に坐して廢せられ、六年四月二十七日大
三
日大
和國宇智郡の幽居に卒し給ふ、九年正月二十日壹志濃
王等を遣して改葬せしめ、墓を御墓と稱す、延暦十九年
七月二十三日、詔して后位を追復し、御墓を山陵と稱す、
陵は圓墳にして、周圍に土手を築き、生垣を回らす、



大枝陵

山城國乙訓郡大枝村大字沓掛字伊勢講山

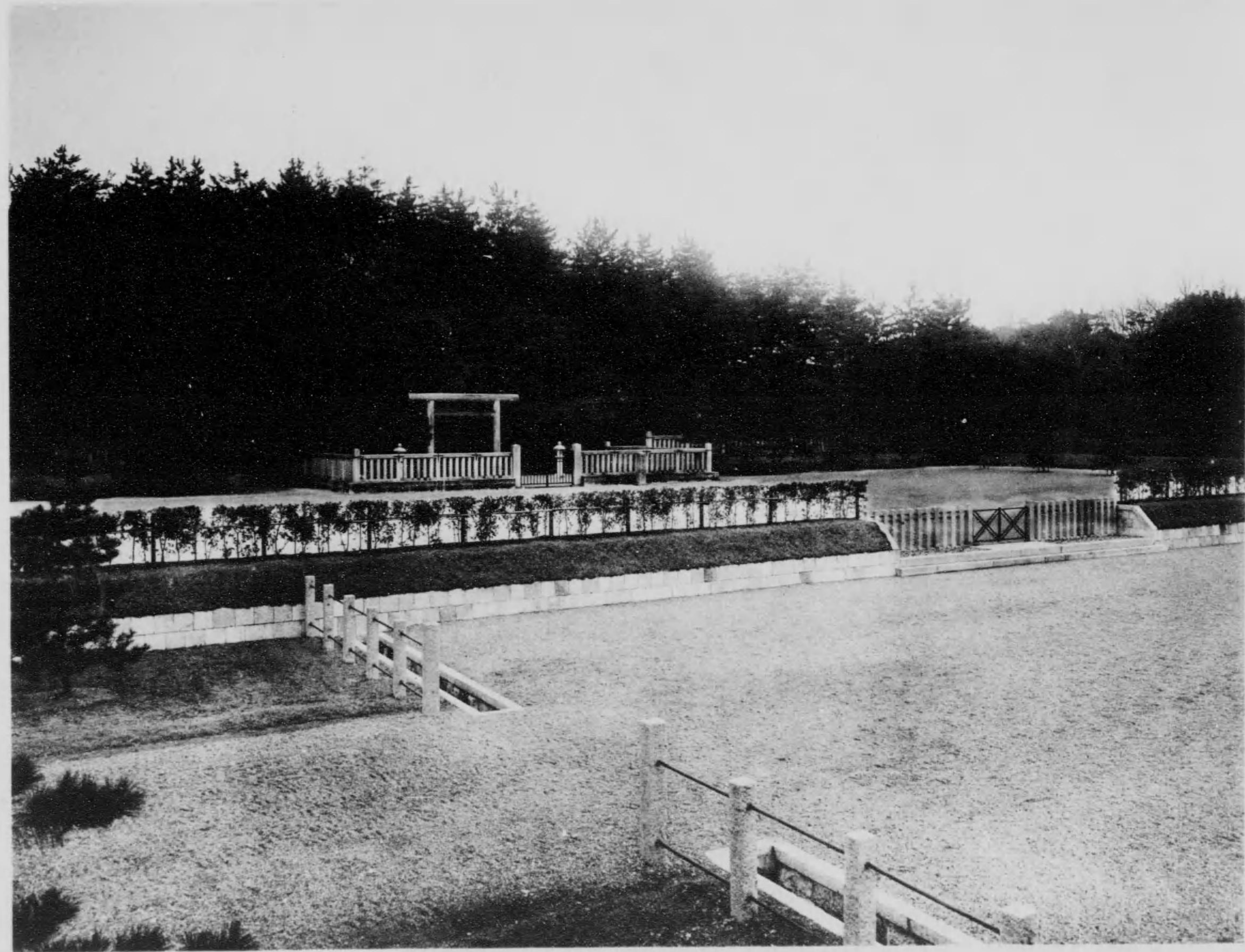
光仁天皇夫人贈太皇太后新笠贈正一位高野乙繼の女、御母は贈正一位大枝眞妹、光仁天皇未だ諸王におします時入りて妃となり、寶龜年中、從三位に敘し、尋で夫人となり、天應元年四月皇太夫人となり、延暦八年十二月二十八日太陽曆一月一日薨じ給ふ、九年正月追尊して皇太后と稱し、十五日大枝山陵に葬り奉る、大同元年五月十九日、更に追尊して太皇太后と稱す、陵は圓墳にして、周圍に土手を築き、生垣を回らす、



柏原陵

山城國紀伊郡堀内村大字堀内字永井久太郎

桓武天皇第十代御名は山部光仁天皇の第二皇子、御母は夫人贈太皇太后新筥。天平九年御降誕、天平寶字八年十月從五位下に敍し、累進して從四位下侍從となり、寶龜元年十一月親王となり、二年三月中務卿に任じ給ふ、三年五月光仁天皇皇太子他戸親王を廢し給ふや、參議藤原百川の推奏に依り、四年正月皇太子に立ち、天應元年四月禪を受けて位に即き給ふ、時に御年四十五、延曆三年五月山城國乙訓郡長岡の地を相して都城を經始し、十一月之に徙り給ふ、長岡宮是れなり、十二年正月更に山城國葛野郡宇太の地を相して新京を經營し、十三年十月、都を新京に遷し給ふ、之を平安京と謂ふ、爾來一千有餘年の帝都たりし今の京都是れなり、在位二十五年、大同元年三月十七日太皇太后崩御、御年七十、葛野郡宇太野を以て山陵の地となす、初七齋の日、大井、比叡、小野、栗栖野等の山、共に燒く、平城天皇以爲らく、定むる所の山陵の地、賀茂神に近し、疑ふらくは、神社災火を致すかと、親ら祈禱せらる、火災立るに滅す、四月七日山城國紀伊郡柏原山陵に葬り奉る、追諡して桓武天皇と申す、世に柏原帝と稱し奉る、陵は圓形にして、周圍に石柵を回らす、



高畠陵

山城國乙訓郡向日町大字寺戸字大牧

桓武天皇皇后乙牟漏、贈太政大臣從一位藤原良繼の第二女、御母は贈從一位阿倍古奈美、天平寶字四年御誕生、

桓武天皇未だ儲宮におはします時入りて妃となり、延

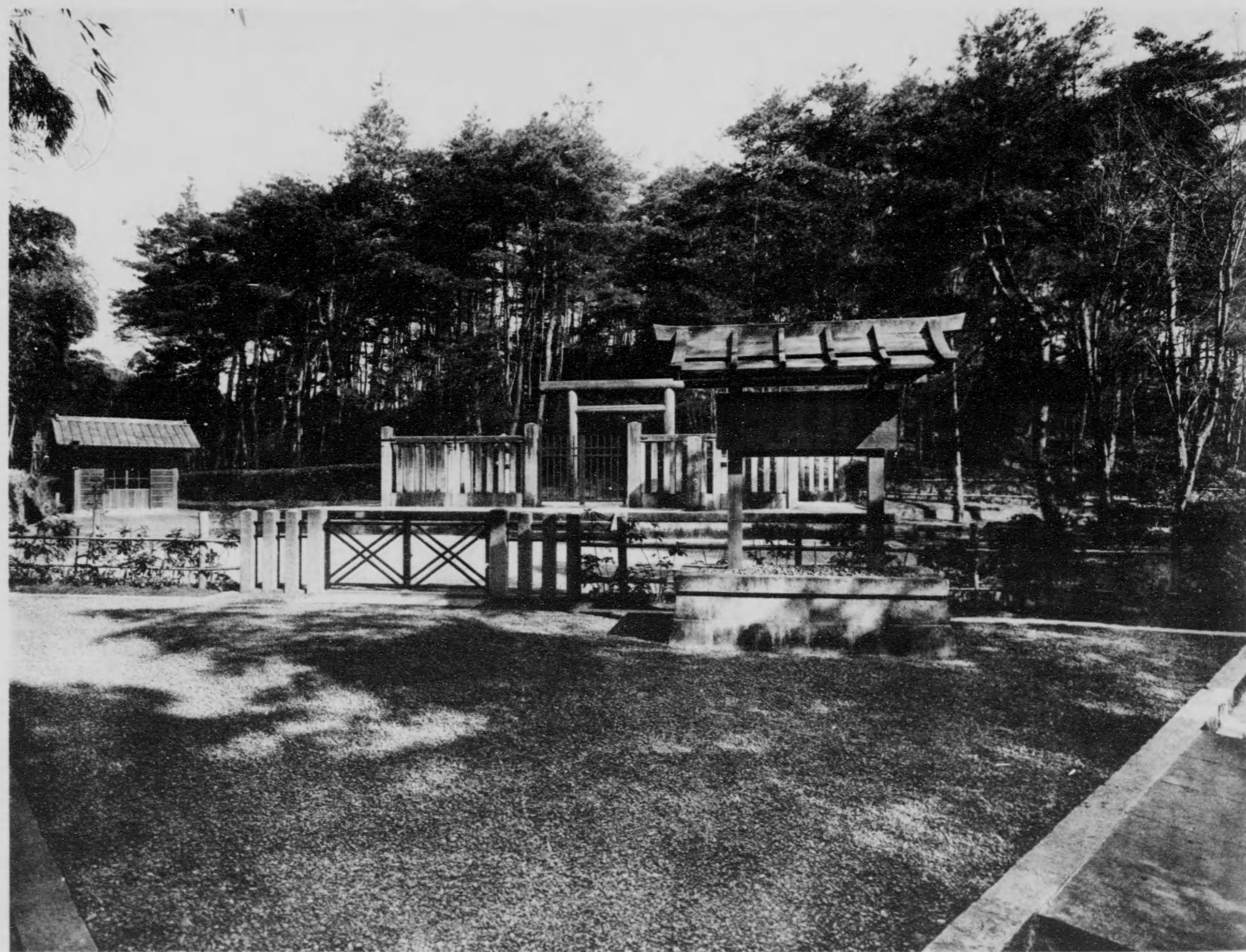
暦二年二月正三位に敘し、夫人となり、四月皇后に立ち、

九年閏三月十日太陽曆五月長岡宮に崩じ給ふ、御年三十一、

二十八日諡して天之高藤廣宗照姫之尊と申す、是日長

岡山陵に葬り奉る、陵は圓形にして、周圍に土手を築き、

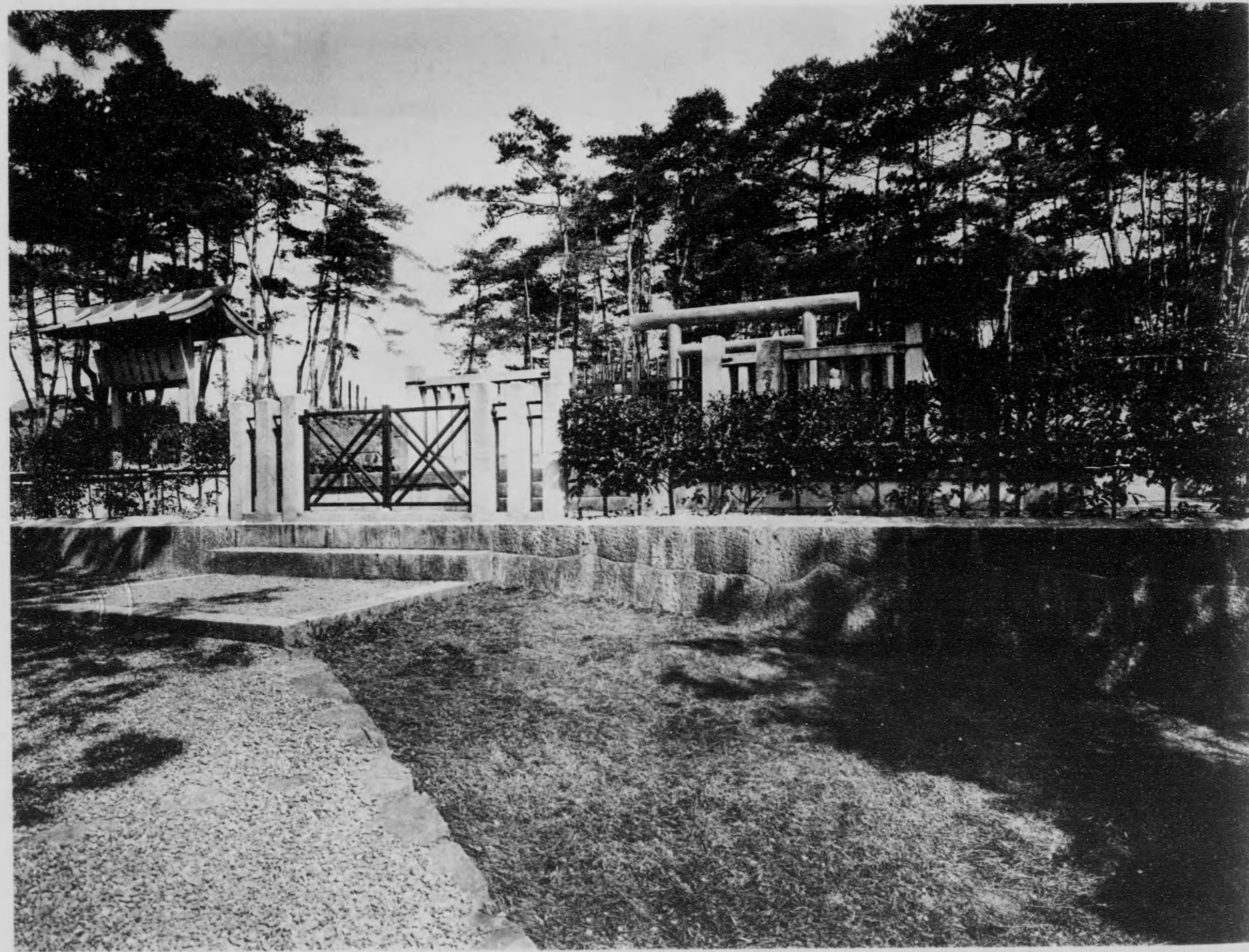
生垣を回らす、



宇波多陵

山城國乙訓郡大枝村大字塚原字乳母戸

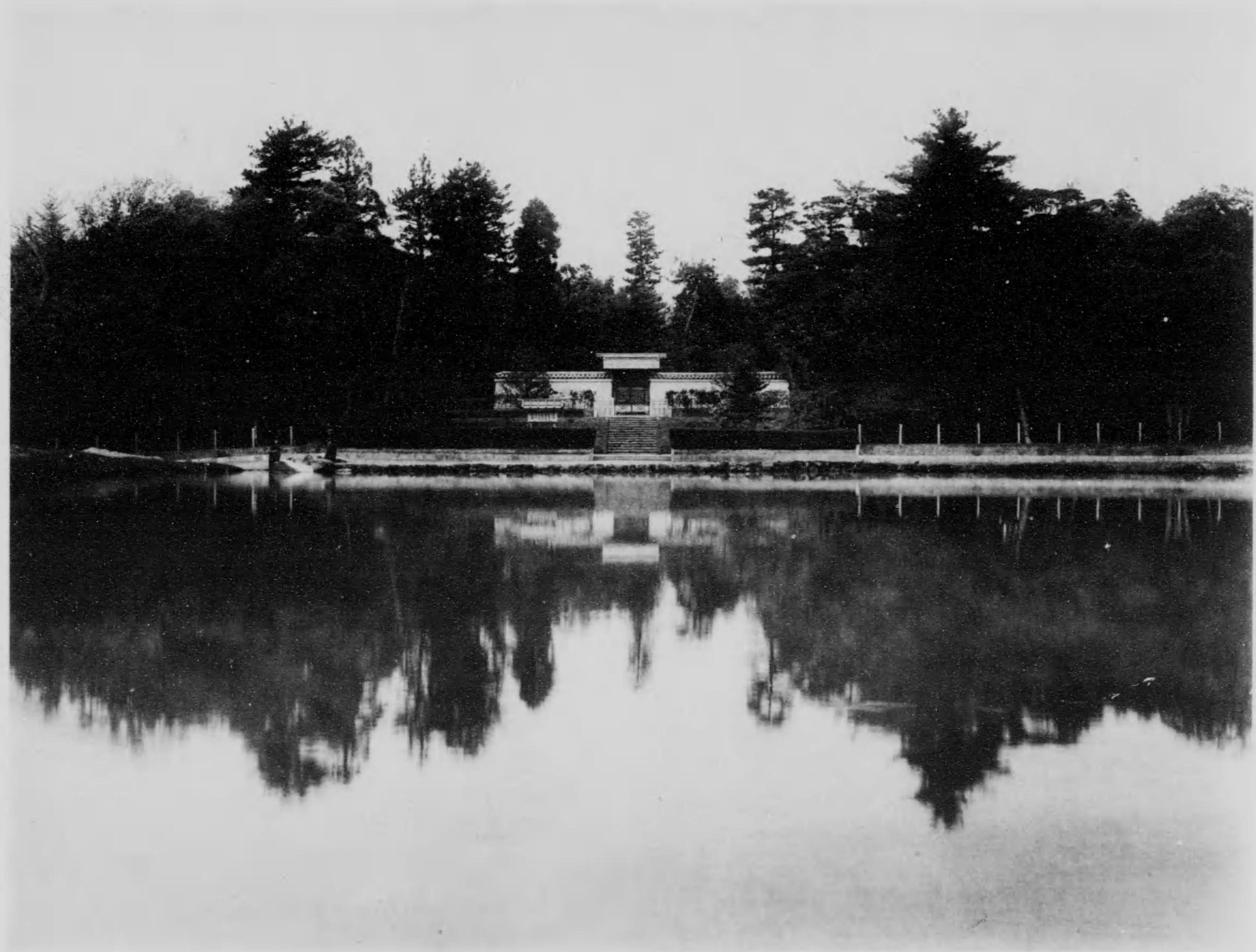
桓武天皇夫人贈皇太后旅子、贈太政大臣從一位藤原百川の第一女、御母は贈正一位藤原諸姉、天平寶字三年御誕生、延暦四年十一月從三位に敘し、五年正月夫人となり、七年五月四日太陽曆六月十六日薨じ給ふ、御年三十、詔して妃正一位を贈り、弘仁十四年五月一日、追尊して皇太后となす、陵は圓墳にして、周圍に生垣を回らす、



八嶋陵

大和國添上郡東市村大字八嶋字今里

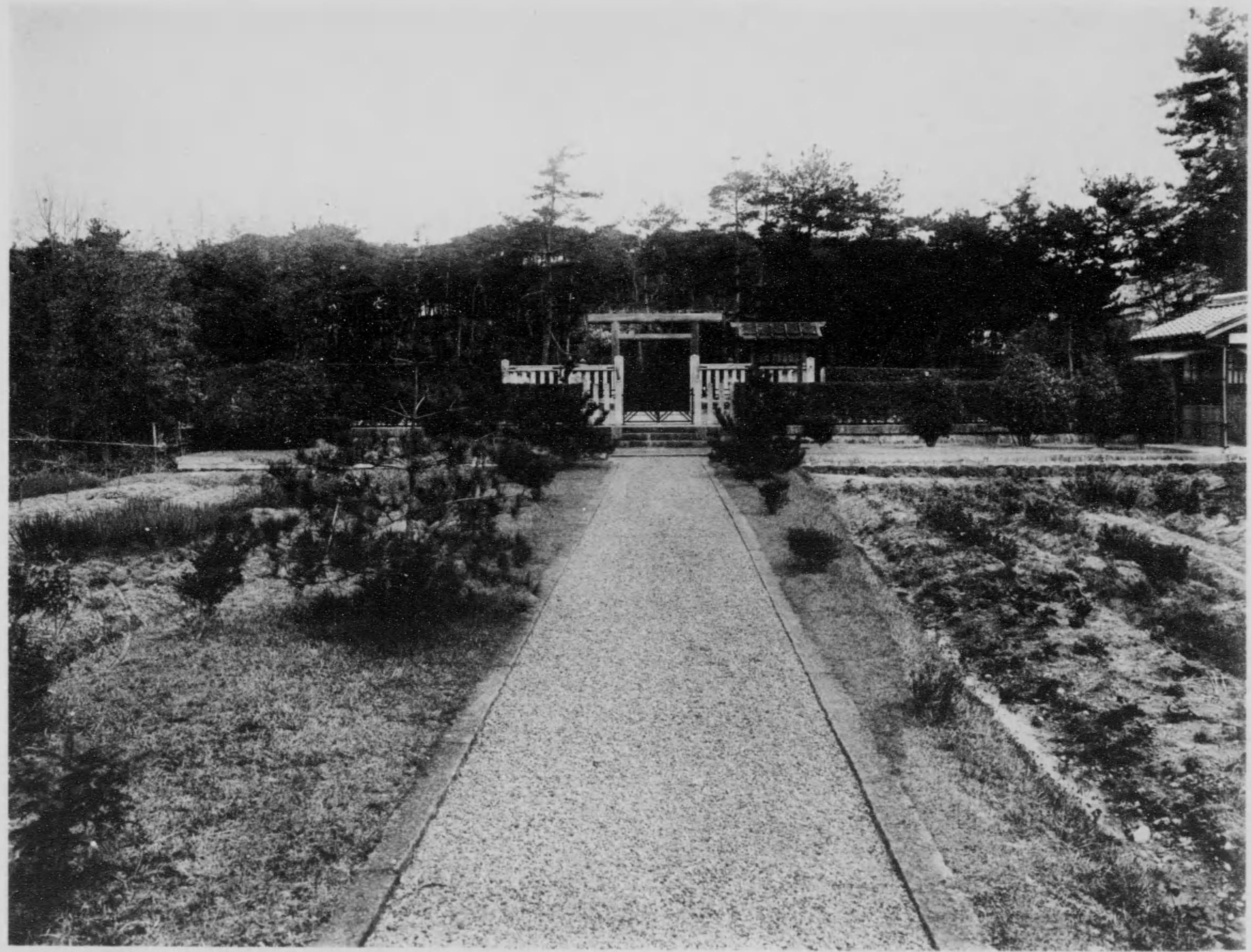
崇道天皇御名は早良、光仁天皇の第五皇子、御母は夫人贈太皇太后新笠、天平勝寶二年御誕生、寶龜元年十一月親王となり、天應元年四月皇太子に立ち、延暦四年九月廢せられて乙訓寺に幽せらる、食を絶つこと十餘日、遂に淡路に配流せられ、途、高瀬橋に到りて卒し給ふ、御年三十六、即ち御屍を送りて淡路に葬り奉る、十七年參議五百枝王を遣して、御遺骸を迎へしめ、勅して大和國八嶋に藏めしめらる、十九年七月二十三日、追尊して、崇道天皇と申し、御墓を山陵と稱す、陵は圓墳にして、周圍に土塀を回らす、



楊梅陵

大和國生駒郡都跡村大字佐紀字ニジ山

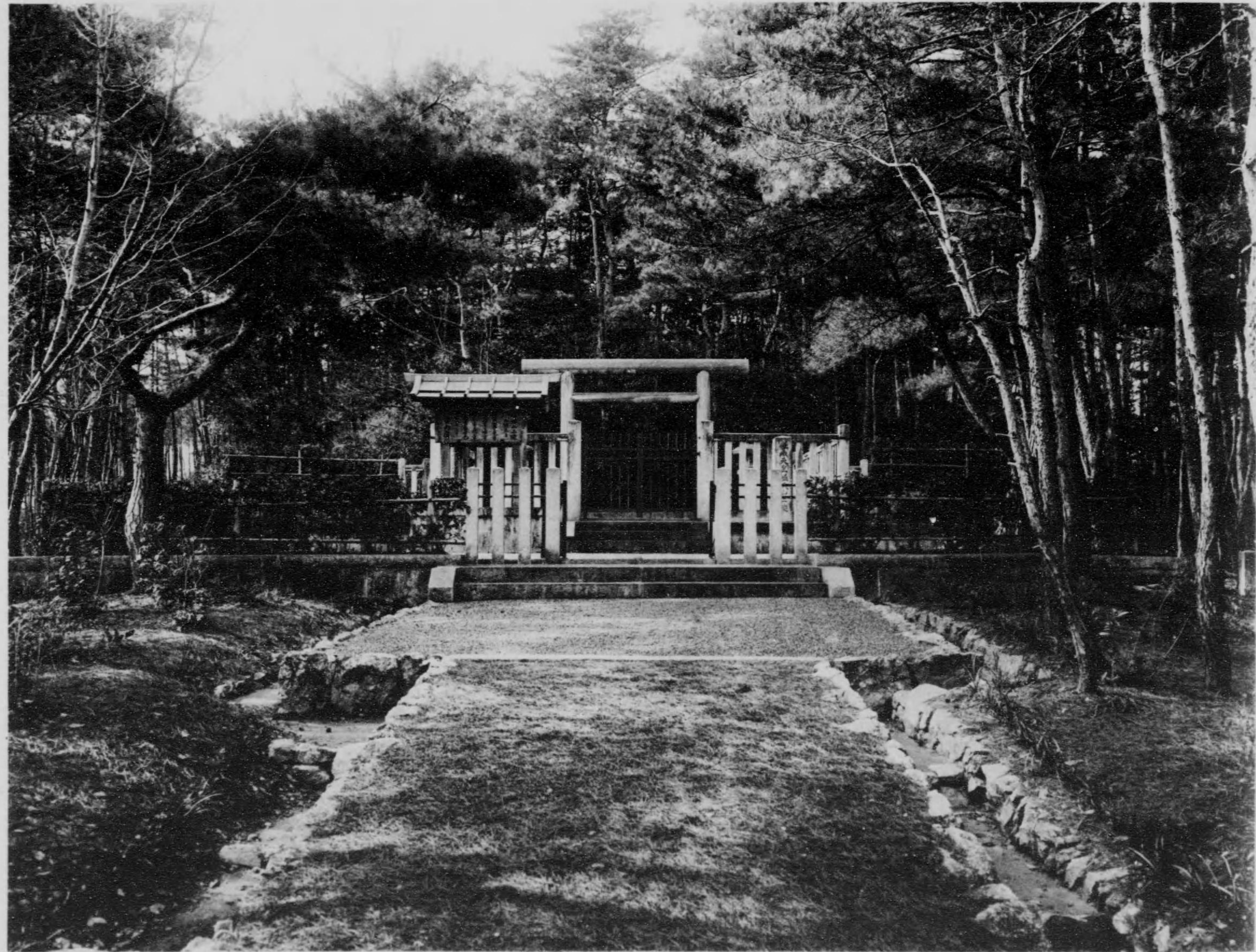
平城^{ヘイセイ}天皇^{第一第五十}御名は安殿^{アノノ}初め小殿といふ、桓武天皇の
第一皇子、御母は皇后乙牟漏^{オトモロ}寶龜五年八月十五日御降
誕、延曆四年九月桓武天皇皇太子早良親王^{天崇}を廢し給
ふや、十一月皇太子に立ち、七年五月大極殿に即位し給
ふ、時に御年三十三、在位三年、大同四年四月位を嗟峨天
皇に譲り、弘仁元年九月御落飾、天長元年七月七日^{太陽九曆}
崩じ給ふ、御年五十一、十二日大和國添上郡楊梅陵^{ヘイセイ}に
葬り奉る、平城天皇と申す、陵は三壇に築きたる圓墳に
して、周圍に空陸を環らし、生垣を回らす、



嵯峨山上陵

山城國葛野郡嵯峨村大字上嵯峨字朝原山

嵯峨^{サカ}天皇^ニ第五^ノ十^ノ御名は神野^{カミノ}桓武天皇の第四皇子、御母は皇后乙牟漏^{オトモロ}延暦五年九月七日長岡宮^{ナガノミヤ}に生れ給ふ、二十二年正月三品に敘し、五月中務卿に任じ、大同元年五月彈正尹となり、是月皇太弟に立ち、四年四月平城天皇の禪を受けて大極殿に即位し給ふ、時に御年二十四、在位十四年、弘仁十四年四月冷然院^{レイゼンイン}に徙り、親諭して位を淳和天皇に譲り、承和元年八月嵯峨院に徙り、九年七月十五日^{太陽曆八月}崩じ給ふ、御年五十七、遺詔して宣はく、棺を作る厚からず、之を覆ふに席を以てし、約するに黒葛を以てし、牀上に置き、歛むるに時服を以てする、皆故衣を用ゐ、衣衾飯含平生の物、一に皆之を絶て、山北幽僻不毛の地を擇びて之を葬れ、坑を穿つ、淺深縱横棺を容るべし、葬限三日を過ぐべからず、又棺既に下し了らば、封せず、樹せず、地を平均せしめ、長く祭祀を絶て、但し子中長者私に守冢を置き、三年の後之を停めよと、十六日山北幽僻の地に山陵を定め、商布二千段錢一千貫文を以て御葬料に充て、即日葬り奉る、嵯峨天皇と申す、陵は圓墳にして、周圍に生垣を回らす、



嵯峨陵

山城國葛野郡嵯峨村大字上嵯峨字大深谷

嵯峨天皇皇后嘉智子、贈太政大臣正一位橘清友の第一女、御母は贈正一位田口氏、延暦五年御誕生、嵯峨天皇未だ親王におはします時入りて妃となり、大同四年六月夫人となり、弘仁の初、從三位に進み、六年七月皇后に立ち、十四年四月淳和天皇受禪に及び、尊びて皇太后と稱し、天長十年二月、仁明天皇受禪、三月更に尊びて太皇太后と稱し給ふ、嘉祥三年、仁明天皇の不豫に依り、薙髮して尼となり、以て冥救を祈り給ふ、五月四日太皇太后崩 曆六月崩御、御年六十五、世に檀林皇后と申す、五日深谷山に葬り奉る、遺令に依りて薄葬し、山陵を營まず、陵は圓墳にして、周圍に石柵を回らす、



大原野西嶺上陵

山城國乙訓郡大原野村大字大原野字清塚

淳和天皇^{第五十}御名は大伴桓武天皇の第五皇子、御母は夫人贈皇太后旅子、延暦五年御降誕、二十二年正月三品に敘し、五月兵部卿に任じ、大同三年五月治部卿となり、弘仁元年中務卿に轉じ、九月皇太弟に立ち、十四年四月嵯峨天皇の禪を受けて大極殿に即位し給ふ、時に御年三十八、在位十年、天長十年二月西院に徙り、位を仁明天皇に譲り、承和七年五月八日^{太皇太后崩}淳和院に崩じ給ふ、御年五十五、初め是月六日、天皇遺命して宣はく、歛葬の具は一切薄きに従ひ、追福の事は固より儉約を須む、國忌荷前を停むべしと、又宣はく、人没して精魂天に歸す、而るに空しく冢墓を存す、永く後累を貽す、宜しく骨を碎きて粉となし、之を山中に散せよと、中納言藤原吉野諫奏す、天皇宣はく、氣力綿悞論決すること能はず、卿等宜しく太上天皇^{嵯峨}に奏し、以て裁を仰ぐべきのみと、十三日夕、山城國乙訓郡物集村に火葬し、遺詔に遵ひて國忌陵戸を置かず、荷前に列せず、御骨は碎粉して、大原野西嶺上に散し奉る、淳和天皇と申し、又、西院帝といふ、陵は山形にして、周圍に石垣を回らず、元陵上に圓き小石を積み圍みたる冢、東西に五基相竝びたるが、後に其の小石に土を覆はれたりといふ、

御火葬塚は山城國乙訓郡向日町大字物集女字出口にあり、方墳にして、周圍に空隍を環らし、生垣を回らず、



深草陵

山城國紀伊郡深草村大字深草字東伊達町

仁明天皇第四十五代御名は正良、嵯峨天皇の第三皇子、御母は

皇太后嘉智子、弘仁元年御降誕、十四年四月淳和天皇受

禪の日、皇太子に立ち、天長十年二月淳和天皇の禪を受

け、三月大極殿に即位し給ふ、時に御年二十四、在位十七

年、嘉祥三年三月十九日御落飾、二十一日太陽曆五月清涼殿

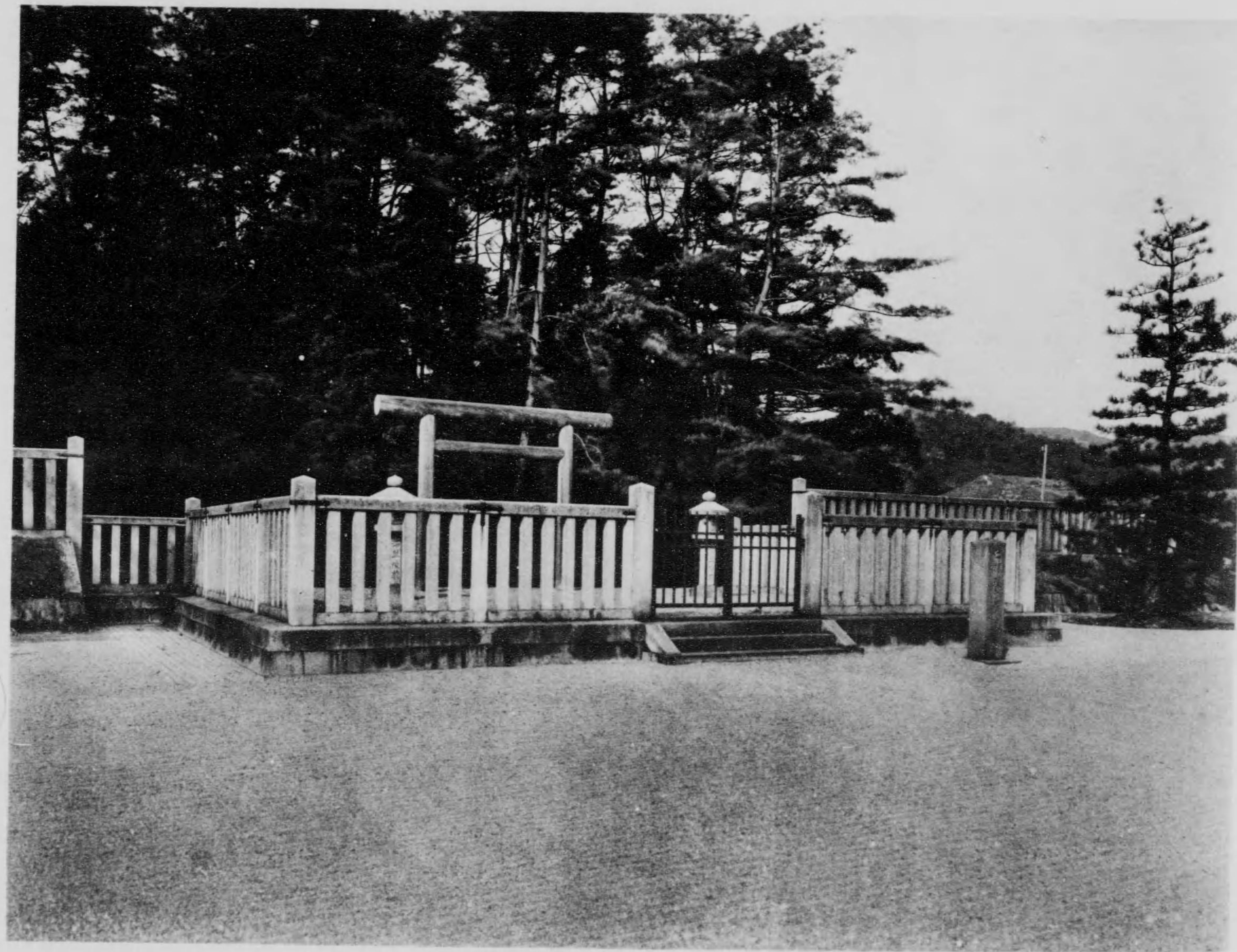
に崩じ給ふ、御年四十一、二十五日山城國紀伊郡深草山

陵に葬り奉る、送終の禮、薄葬に従ひ、綾羅錦繡の類、皆帛

布を以て之に代へ、鼓吹方相の儀悉く之を停む、蓋し遺

制を奉ずるなり、諡して仁明天皇と申す、世に深草帝と

稱し奉る、陵は方形にして、周圍に隍あり、石柵を回らす、



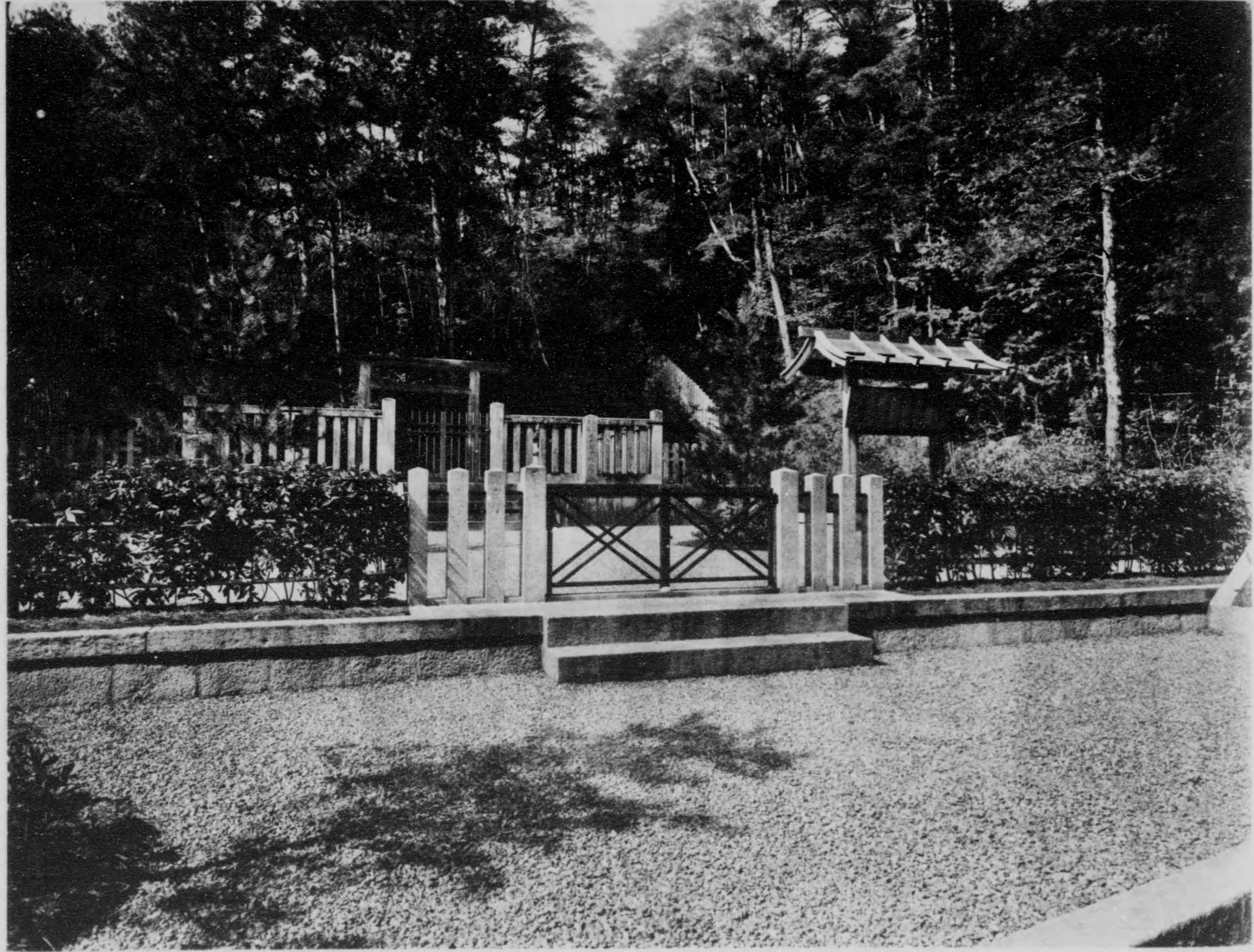
後山階陵

山城國宇治郡山科村大字御陵字澤ノ川

仁明天皇女御太皇太后順子、贈太政大臣正一位藤原冬嗣の女、御母は贈正一位藤原美都子、仁明天皇未だ儲貳におはします時入りて妃となり、天皇踐祚の初め從四位下に敍し、女御となり、承和十一年正月從三位に進み、

(71)

嘉祥三年四月、文德天皇即位の日、皇太夫人となり、東五條院に移り、齊衡元年四月、皇太后となり給ふ、貞觀二年二月御薙髮、六年正月、太皇太后となり、十三年九月二十八日太陽曆八月十一日崩じ給ふ、世に五條后と申す、十月五日山城國宇治郡後山階山陵に葬り奉り、國忌を東寺に置く、陵は圓墳にして、周圍に木柵を回らす、



中尾陵

山城國京都市下京區今熊野寶藏町

仁明天皇女御贈皇太后澤子、贈太政大臣正一位藤原總

繼の女、御母は贈正一位藤原數子、女御となり、從四位下

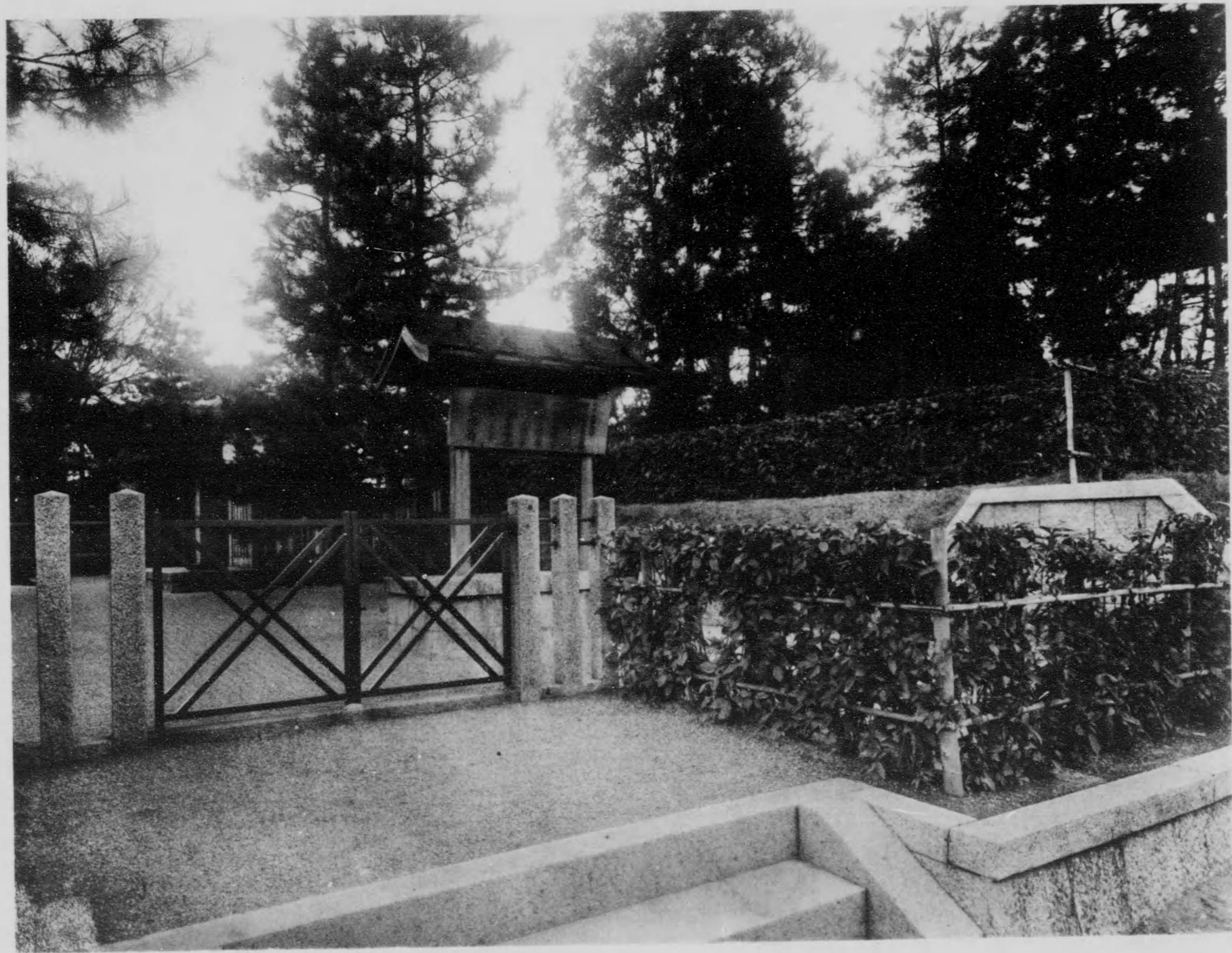
に敘す、承和六年六月三十日月太陽十曆六日卒し給ふ、從三位を

贈り、中使を遣して喪事を監護せしめ、山城國愛宕郡鳥

戸郷戸郷に葬り奉る、元慶八年二月二十三日、追尊して皇太

后となし、御墓を改めて中尾山陵中尾山陵と稱し、國忌國忌を東寺に

置く、陵は圓墳にして、周圍に土手を築き、生垣を回らす、



田邑陵

山城國葛野郡太秦村大字中野字三尾山

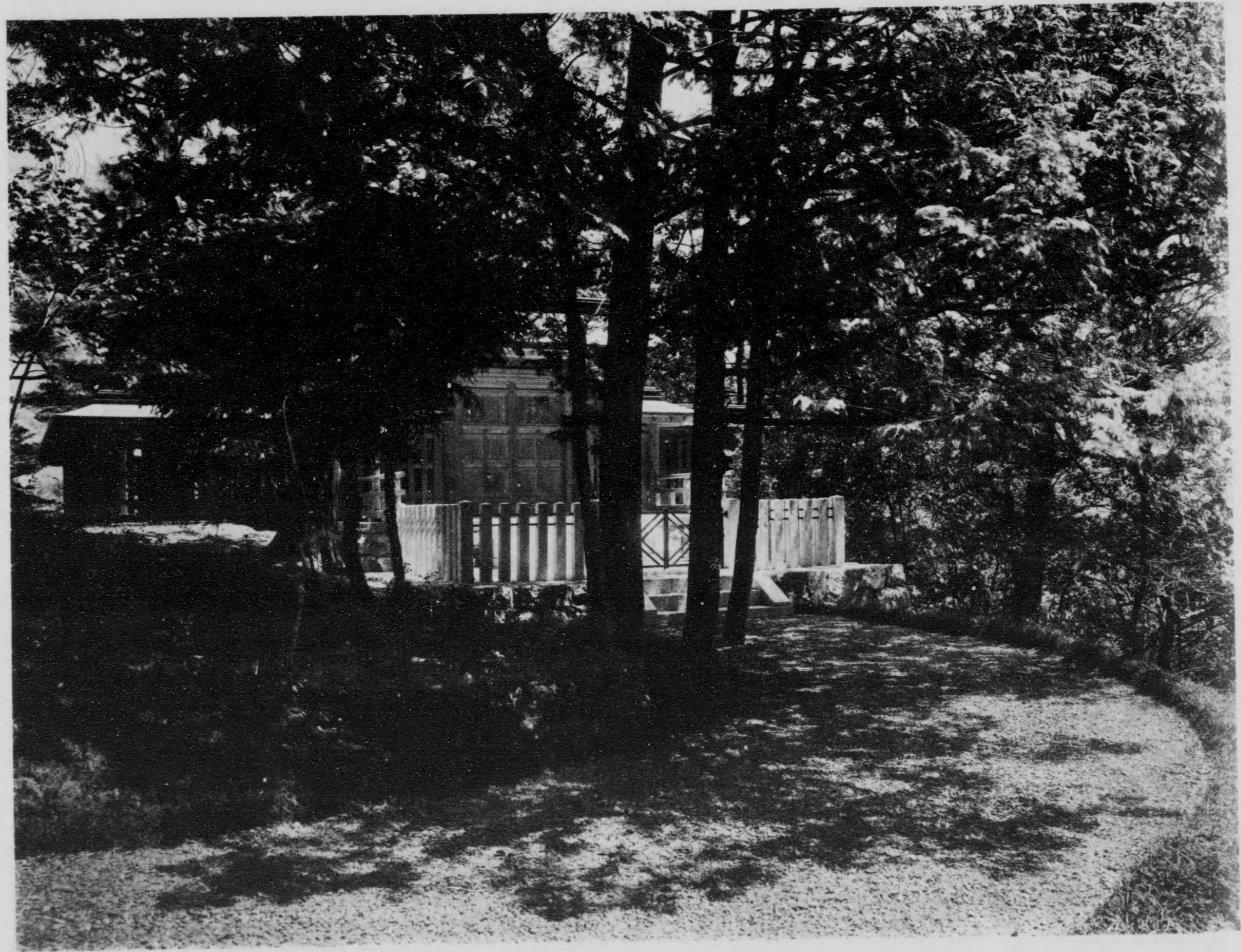
文德天皇第五十五代御名は道康、仁明天皇の第一皇子、御母は皇太后順子、天長四年八月御降誕、承和九年八月皇太子に立ち、嘉祥三年三月禪を受け、四月大極殿に即位し給ふ、時に御年二十四、在位八年、天安二年八月二十七日陽太、十一月十日冷然院の新成殿に崩じ給ふ、御年三十二、九月二日、邑郷真原丘に至りて山陵の地を點定し、六日夜、真原山陵に葬り奉る、殯葬の禮、皆儉約に従ふこと、一に仁明天皇の故事の如くす、但し前例を變ずる、唯方相氏あるのみ、十二月十日詔して、真原山陵を改めて田邑山陵と稱す、貞觀二年八月國忌を西寺に置く、諡して文德天皇と申し、世に田邑帝と稱し奉る、陵は圓墳にして、周圍に生垣を回らす、



水尾山陵

山城國葛野郡嵯峨村大字水尾字清和

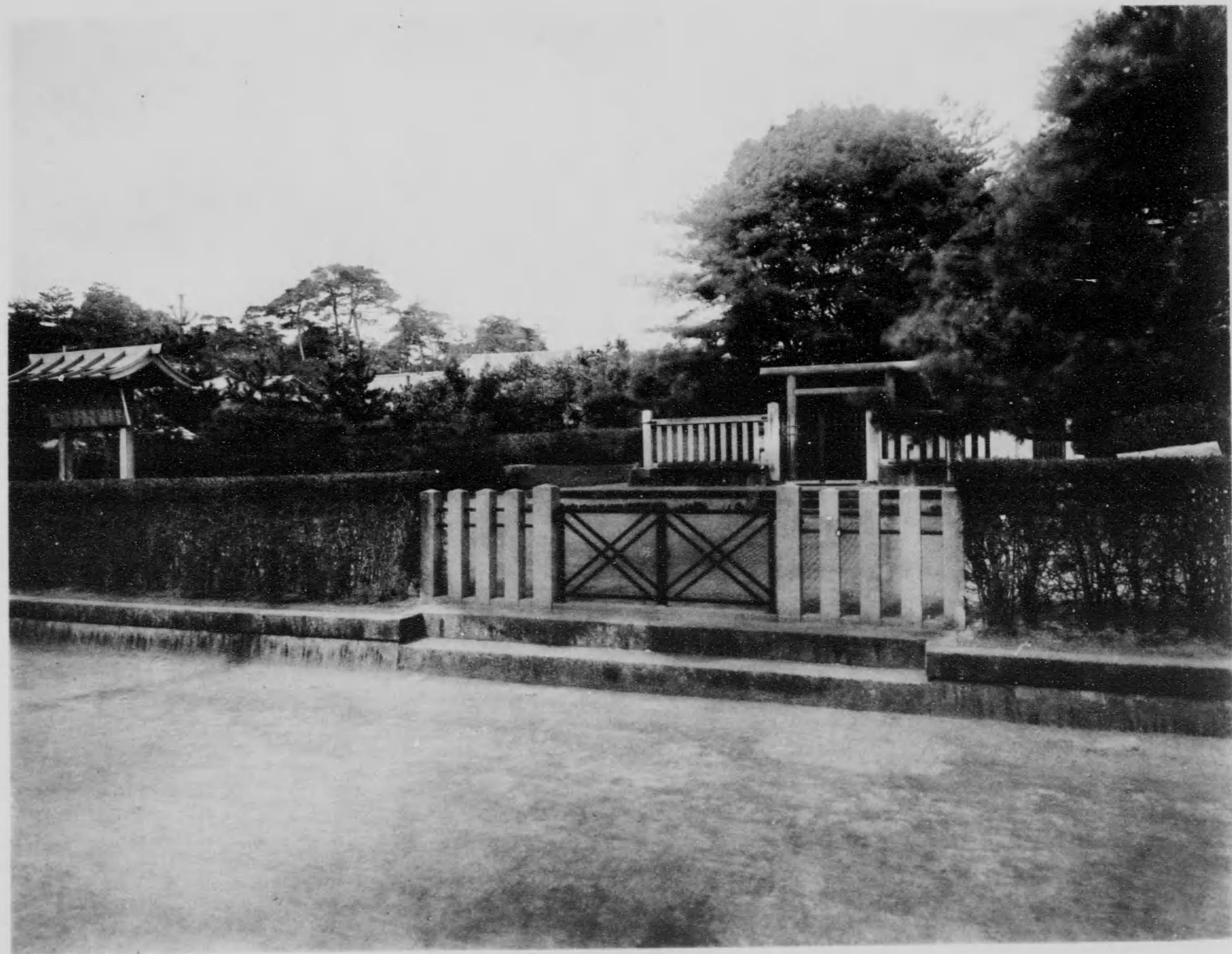
清和天皇第六十五代御名は惟仁、文德天皇の第四皇子、御母は皇太后明子、嘉祥三年三月二十五日外祖右大臣藤原良房の一條第に生れ給ふ、十一月皇太子に立ち、天安二年十一月大極殿に即位し給ふ、時に御年九、在位十八年、貞觀十八年十一月染殿院に幸し、位を陽成院天皇に譲り、元慶元年三月清和院に徙り、三年五月攝政藤原基經の粟田院に遷り、落飾して法名を素眞と號し、四年十二月四日太陽曆十一月一日粟田山莊圓覺寺に崩じ給ふ、御年三十一、遺詔して、中野に火葬し、山陵を起さず、百官及諸國哀を擧げず、素服せず、監葬の諸司を置かず、喪事に用ゐる所に省約に従はしめ給ふ、七日山城國愛宕郡粟田山に火葬し、御骨を水尾山に置き奉る、清和天皇と申し、又、水尾帝といふ、陵は方形にして、周圍に木柵を回らす、



神樂岡東陵

山城國京都市上京區淨土寺眞如町字小山

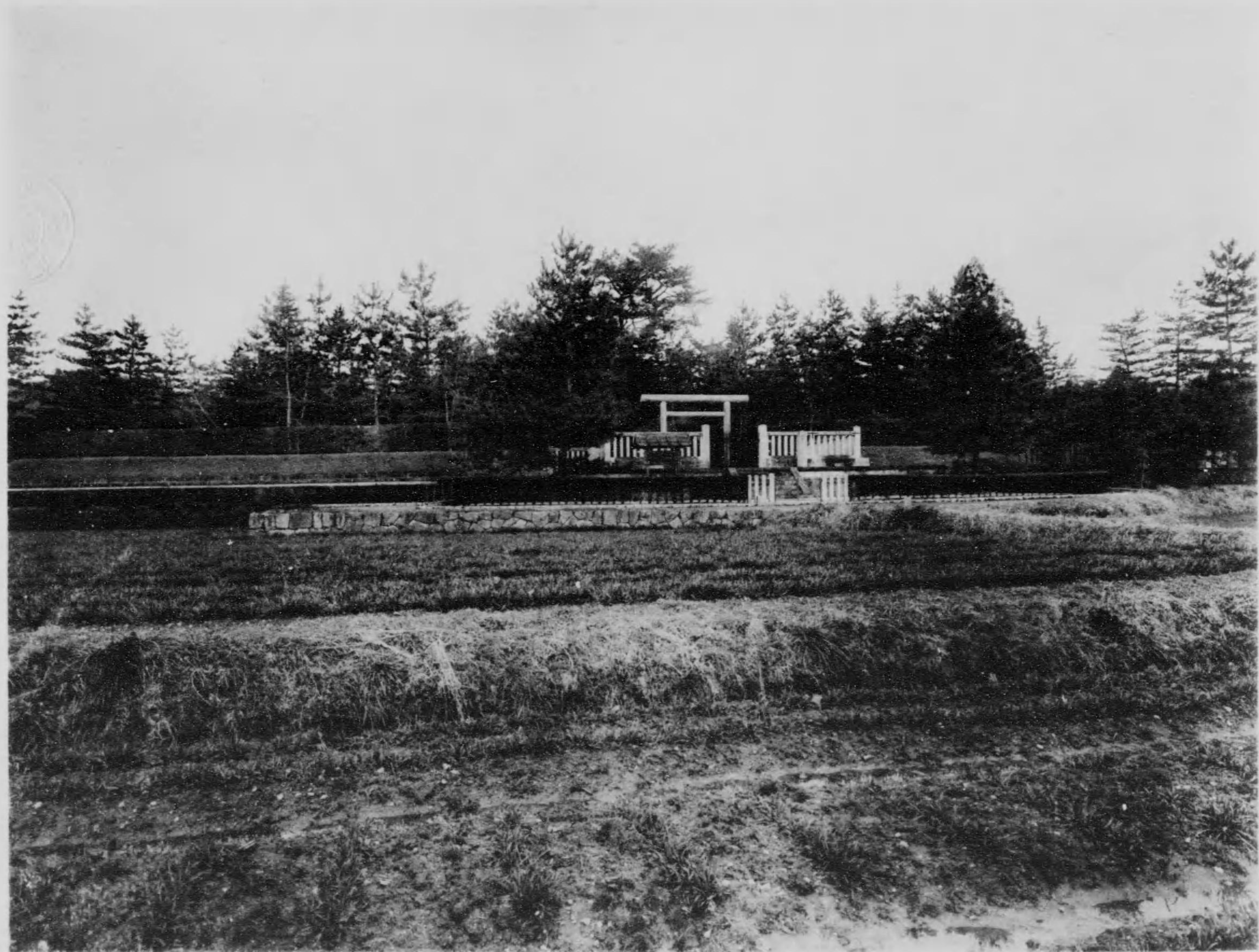
陽成院^{ヤウセイイン}天皇^{テウ}第七十五代^{ナナヒトイハヒノイハヒノイ}御名は貞明^{マサアキラ}、清和天皇の第一皇子、御母は皇太后高子、貞觀十年十二月十六日染殿院に生れ給ふ、十一年二月皇太子に立ち、十八年十一月受禪、元慶元年正月豐樂殿に即位し給ふ、時に御年十、在位八年、元慶八年二月位を遜れて二條院に徙り、天曆三年九月二十日御落飾、二十九日^{ニニヤチハチノイハヒノイ}冷泉院^{レイゼンイン}に崩じ給ふ、御年八十二、即夕粟田の圓覺寺に殯し、十月三日神樂岡^{カシノノ}の東北に葬り奉り、國忌^{クニヨミ}を西寺に置く、陽成院と申す、陵は圓墳にして、周圍に空陸を環らし、土手を築き、生垣を回らす、



後田邑陵

山城國葛野郡花園村大字宇多野字馬場田

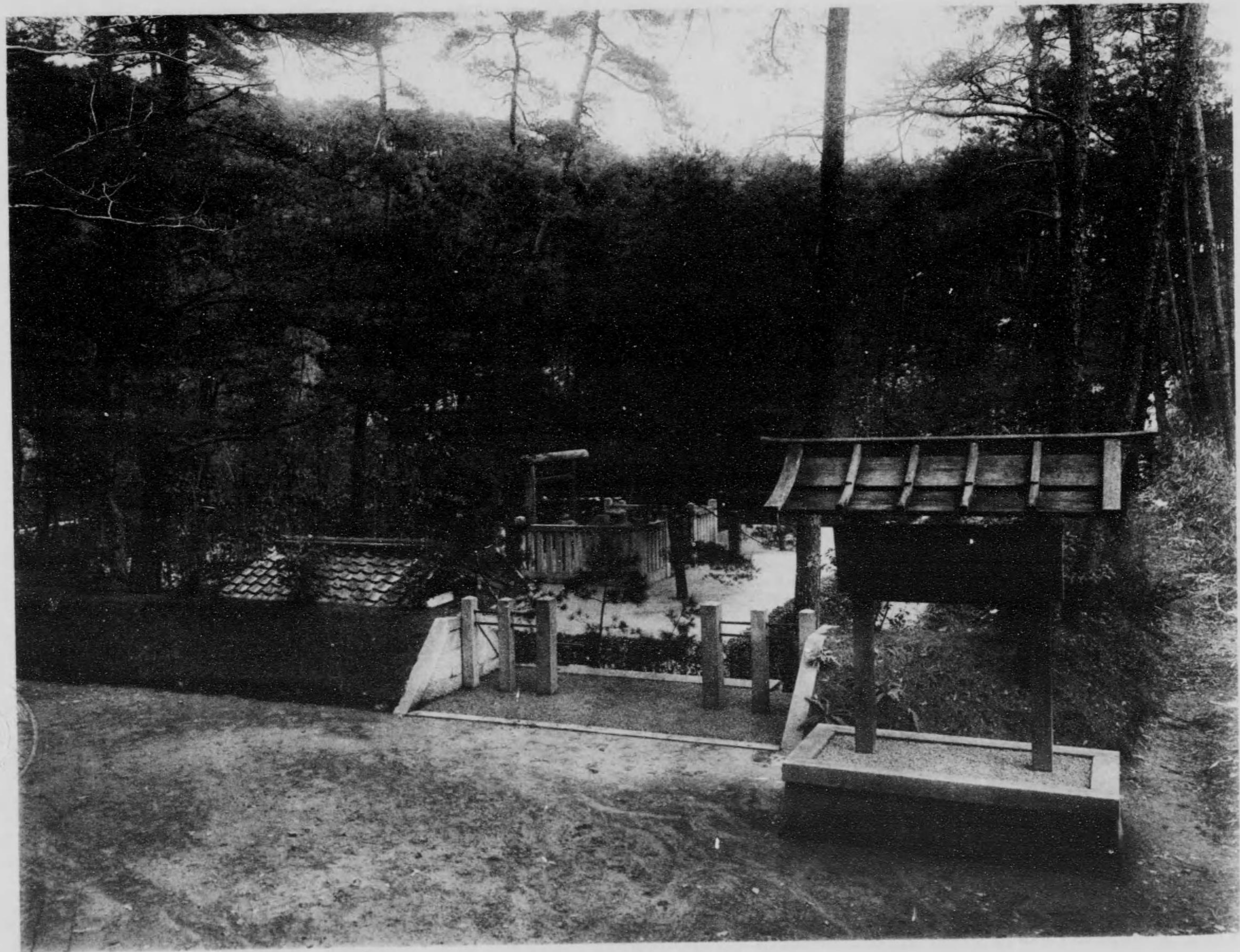
光孝天皇第八十五代御名は時康、仁明天皇の第三皇子、御母は夫人贈皇太后澤子、天長七年六條第に生れ給ふ、承和の初め親王となり、十三年正月四品に敘し、累進して一品式部卿となり、常陸太守を兼ね、元慶八年二月陽成院天皇位を遜れ給ふや、太政大臣藤原基經、親王公卿と策を定め、神器を奉じて天皇に勸進す、天皇辭讓し給へども、遂に東二條宮に迎へ奉る、天皇即ち東宮に入り、尋で大極殿に即位し給ふ、時に御年五十五、在位三年、仁和三年八月二十六日太閤一曆九月仁壽殿に崩じ給ふ、御年五十八、九月二日山城國葛野郡後田村陵に葬り奉る、一に小松山陵といふ、國忌を西寺に置く、謚して光孝天皇と申し、世に小松帝と稱し奉る、陵は圓墳にして、周圍に土手を築き、生垣を回らす、



大内山陵

山城國葛野郡花園村大字宇多野字宇多ノ谷

宇多院天皇第九十五代御名は定省、光孝天皇の第十六皇子、御母は皇太后班子女王、貞觀九年五月五日御降誕、元慶八年四月姓源朝臣を賜ふ、仁和三年八月二十二日太政大臣藤原基經等、天皇を立て、皇嗣となさんことを奏請す、二十五日詔して親王となし、立て、皇太子とし給ふ、是日光孝天皇崩御、天皇宣耀殿に踐祚し、十一月大極殿に即位し給ふ、時に御年二十一、在位十年、寛平九年七月位を醍醐天皇に譲り、八月東三條院に徙り、昌泰元年二月朱雀院に徙り、二年十月仁和寺に落飾し、法名を玄理と稱し、灌頂して金剛覺と號し、四年三月室を仁和寺に營み給ふ、世に御室と稱す、承平元年七月十九日太陽曆九月八日仁和寺に崩じ給ふ、御年六十五、遺詔して、席を以て棺を裏み、葛を以て之を約し、葬司を任じ、山陵を造り、國忌を置き、荷前に列し、及諸司諸國哀を擧げ、素服するを停め給ふ、九月六日、大内山に火葬し奉る、宇多院と申し、又、亭子院と稱し奉る、陵は方形にして、周圍に空隍を環らし、土手を築き、生垣を回らす、



小野陵

山城國宇治郡山科村大字勸修寺宇北大日

宇多院天皇女御贈皇太后胤子、贈太政大臣正一位藤原

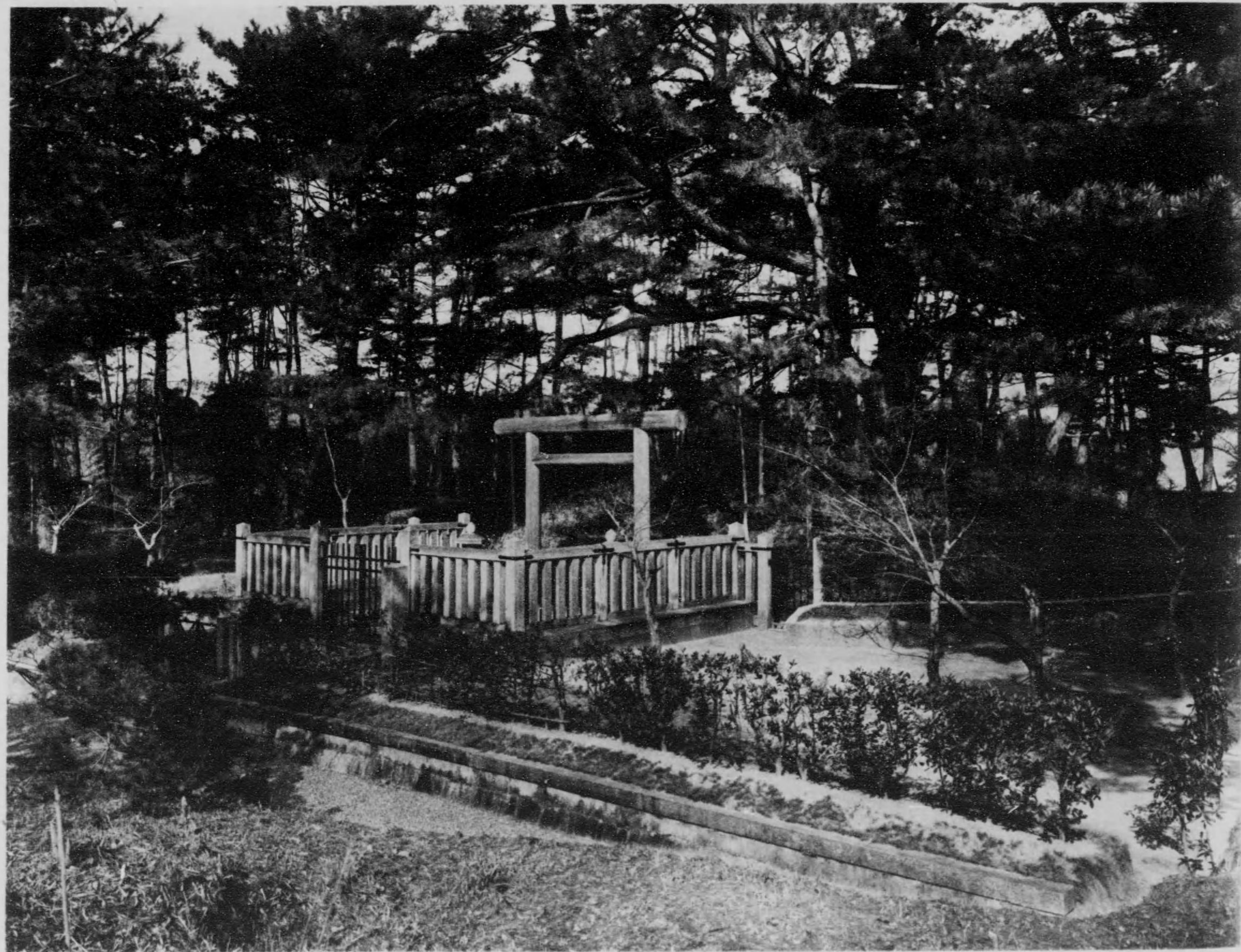
高藤の女御母は贈正一位宮道列子、仁和四年九月更衣

となり、寛平五年正月女御となり、八年六月三十日太陽曆八月十六日

卒し給ふ、山城國宇治郡小野に葬り奉る、九年七月十九

日、追尊して皇太后となし、國忌を置き、荷前に列す、陵は

圓墳にして古松あり、周圍に小土手を築き、生垣を回らす、



宇治陵

山城國宇治郡宇治村大字木幡字中村

宇多院天皇中宮温子、太政大臣贈正一位藤原基經の第三女、御母は贈正一位操子女王、貞觀十四年御誕生、仁和四年十月入内、十一月女御となり給ふ、時に御年十七、寛平九年七月皇太夫人となり、延喜五年五月御薙髮、七年六月七日太陽曆七月二十五日中宮に立ち、是日崩じ給ふ、御年三十六、世に東七條后と申す、

醍醐天皇中宮穩子、太政大臣贈正一位藤原基經の第四女、御母は贈正一位操子女王、仁和元年御誕生、延喜元年三月女御となり給ふ、時に御年十七、延長元年四月中宮に立ち、承平元年十一月皇太后となり、天慶九年四月太皇太后となり、天曆八年正月四日太陽曆二月十日昭陽舍に崩じ給ふ、御年七十、十日宇治陵に葬り奉り、荷前に列し、國忌を東寺に置く、

御火葬塚は山城國京都市下京區今熊野字泉山、鳥野野陵域内にあり、

村上天皇中宮安子、右大臣正二位藤原師輔の第一女、御母は贈正一位藤原盛子、延長五年御誕生、村上天皇未だ親王におはします時宮に入り、皇太弟となり給ふに及びて妃となり、從五位上に敘し、天慶九年五月女御となり、累進して從三位に敘し、天德二年十月中宮に立ち、康保元年四月二十九日太陽曆六月十六日主殿寮に崩じ給ふ、御年三十八、五月七日御葬送、鴨河汎溢に依りて御輿を渡すこと能はず、往還通せず、西岸莊嚴寺に逗留し、八日愛宕郡異の方の野に火葬し、御骨を宇治陵に藏め奉る、中宇治陵と稱す、國忌を西寺に置き、荷前に列す、

御火葬塚は山城國京都市上京區吉田泉殿町にあり、長方形にして、皂莢の老樹あり、周圍に生垣を回らす、

冷泉院天皇女御贈皇太后懷子、太政大臣從一位藤原伊尹の第一女、御母は准三宮惠子女王、天慶八年御誕生、康保四年九月女御となり給ふ、時に御年二十三、累進して從二位に敘し、天延三年四月

三日^{大陽曆五月二十一日}薨じ給ふ、御年三十一、永觀二年十二月十七日、追尊して皇太后となし、御墓を改めて山陵に列し、國忌を置く、

冷泉院天皇女御贈皇太后超子、太政大臣從一位藤原兼家の第一女、御母は贈正一位藤原時姫、安和元年十二月女御となり、天元五年正月二十八日^{大陽曆三月一日}卒し給ふ、寛弘八年十二月二十七日、追尊して皇太后となし、御墓を改めて山陵に列し、國忌を置く、

圓融院天皇中宮媼子、太政大臣贈正一位藤原兼通の第一女、御母は從二位昭子女王、天曆元年御誕生、天延元年二月入内、四月女御となり給ふ、時に御年二十七、七月中宮に立ち、天元二年六月三日^{大陽曆七月四日}堀河院に崩じ給ふ、御年三十三、八日葬り奉る、世に堀河中宮と申す、

圓融院天皇皇后遵子、太政大臣從一位藤原賴忠の第一女、御母は正三位嚴子女王、天德元年御誕生、天元元年四月入内、五月女御となり給ふ、時に御年二十二、五年三月中宮に立ち、正暦元年十月改めて皇后と稱し、長徳三年三月受戒して尼となり、長保二年二月皇太后となり、長和元年二月太皇太后となり、寛仁元年六月一日^{大陽曆七月三日}崩じ給ふ、御年六十一、遺令して、素服哀を擧ぐることを停め給ふ、五日夜般若寺の良方の地に火葬し奉る、世に四條宮と申す、

圓融院天皇女御皇太后詮子、太政大臣從一位藤原兼家の第二女、御母は贈正一位藤原時姫、應和二年御誕生、天元元年八月入内、十一月女御となり給ふ、時に御年十七、寛和二年七月皇太后となり、正暦二年九月薨髮して東三條院と號し、長保三年閏十二月十六日尼となり、二十二日^{大陽曆二月十二日}參議藤原行成の第に崩じ給ふ、御年四十、遺令して、國忌山陵を置かず、又素服哀を擧ぐることを停め給ふ、二十七日夜鳥部野に火葬し奉る、

一條院天皇中宮彰子、太政大臣贈正一位藤原道長の第一女、御母は准三宮源倫子、永延二年御誕生、長保元年二月從三位に敍し、十一月入内して女御となり給ふ、時に御年十二、二年二月中宮に立ち、長和元年二月皇太后となり、寛仁二年正月太皇太后となり、萬壽三年正月薨髮して法名を清淨覺と稱し、上東門院と號す、承保元年十月三日^{大陽曆十一月三十日}法成寺の阿彌陀堂に崩じ給ふ、御年八十

七、六日大谷の本院に火葬し奉る、

三條院天皇中宮妍子、太政大臣贈正一位藤原道長の第二女、御母は准三宮源倫子、正暦五年御誕生、寛弘元年十一月尙侍に任じ、三條院天皇未だ皇太子におはします時入りて妃となり、八年八月女御となり給ふ、時に御年十八、長和元年二月中宮に立ち、寛仁二年十月皇太后となり、萬壽四年九月十四日^{大陽曆十月二十二日}薨髮して尼となり、是日崩じ給ふ、御年三十四、遺令して、素服舉哀、國忌山陵を停め給ふ、十六日大峯寺の前の野に火葬し、御骨を木幡に藏め奉る、

一月女御となり給ふ。同日御年十一。正暦二年九月薨髪して東三條院と號し、長保三年閏十二月十六日尼となり、二十二日太閏曆二月十二日參議藤原行成の第に崩じ給ふ。御年四十、遺令して、國忌山陵を置かず、又素服哀を擧ぐることを停め給ふ。二十七日夜鳥部野に火葬し奉る。

一條院天皇中宮彰子、太政大臣贈正一位藤原道長の第一女、御母は准三宮源倫子、永延二年御誕生、長保元年二月從三位に敘し、十一月入内して女御となり給ふ。時に御年十二、二年二月中宮に立ち、長和元年二月皇太后となり、寛仁二年正月太皇太后となり、萬壽三年正月薨髪して法名を清淨覺と稱し、上東門院と號す。承保元年十月三日太閏曆十月三十一日法成寺の阿彌陀堂に崩じ給ふ。御年八十

七、六日大谷の本院に火葬し奉る。

三條院天皇中宮妍子、太政大臣贈正一位藤原道長の第二女、御母は准三宮源倫子、正暦五年御誕生、寛弘元年十一月尙侍に任じ、三條院天皇未だ皇太子におはします時入りて妃となり、八年八月女御となり給ふ。時に御年十八、長和元年二月中宮に立ち、寛仁二年十月皇太后となり、萬壽四年九月十四日太閏曆十月二十三日薨髪して尼となり、是日崩じ給ふ。御年三十四、遺令して、素服舉哀、國忌山陵を停め給ふ。十六日大峯寺の前の野に火葬し、御骨を木幡に藏め奉る。世に枇杷太后と申す。

三條院天皇皇后臧子、贈右大臣正二位藤原濟時の女、御母は大納言正三位源延光の女、天延元年御誕生、正暦二年、三條院天皇未だ皇太子におはします時入りて妃となり給ふ。時に御年十九、寛弘八年八月女御となり、長和元年四月皇后に立ち、寛仁三年三月薨髪して尼となり、萬壽二年三月二十五日太閏曆五月一日崩じ給ふ。御年五十三、遺令して、國忌山陵素服舉哀を停め給ふ。四月十四日西院の玉殿に火葬し奉る。

後一條院天皇皇后臧子、太政大臣贈正一位藤原道長の第三女、御母は准三宮源倫子、長保元年御誕生、長和元年尙侍に任じ、從三位に敘し、寛仁二年三月入内、四月女御となり給ふ。時に御年二十、十月皇后に立ち、長元九年九月六日太閏曆十月四日薨髪して尼となり、是日崩じ給ふ。御年三十八、十九日圓城寺の北櫻本に火葬し奉る。世に大中宮と申す。

後朱雀院天皇女御贈皇太后嬉子、太政大臣贈正一位藤原道長の第四女、御母は准三宮源倫子、寛弘四年御誕生、寛仁二年十一月尙侍に任じ、治安元年二月後朱雀院天皇未だ皇太子におはします時入りて御息所となり給ふ。時に御年十五、萬壽二年八月五日曆九月五日薨じ給ふ。御年十九、正一位を贈らる。十五日船岡の西石蔭に火葬し奉る。寛德二年八月十一日追尊して皇太后となし、國忌を置く。

後冷泉院天皇皇后寛子、太政大臣從一位藤原頼通の第二女、御母は贈從二位源祇子、長元九年御誕生、永承五年十二月入内して女御となり給ふ。時に御年十五、六年二月皇后に立ち、治暦四年三月

改めて中宮と稱し、十二月薙髮して尼となり、延久元年七月皇太后となり、承保元年六月太皇太后となり、大治二年八月十四日陽本に火葬し奉る、世に四條宮と申す、

後冷泉院天皇皇后歎子、關白從一位藤原教通の第三女、御母は大納言正二位藤原公任の女、治安元年御誕生、永承二年十月入内、三年七月女御となり給ふ、時に御年二十八、治曆四年四月皇后に立ち、承保元年六月皇太后となり、八月薙髮して尼となり、小野の山莊に徙り、康和四年八月十八日太陽曆十月七日崩じ給ふ、御年八十二、世に小野皇太后と申す、

後三條院天皇女御贈皇太后茂子、權中納言從二位藤原公成の女、御母は淡路守從五位下藤原定佐の女、後三條院天皇未だ皇太子におはします時入りて御息所となり、康平五年六月二十二日陽本卒し給ふ、宇治に葬り奉る、世に滋野井女御と申す、延久四年五月六日追尊して皇太后となし、國忌を置き、御墓を改めて、山陵に列し、今宇治陵と稱す、

堀河院天皇女御贈皇太后茂子、贈太政大臣正一位藤原實季の女、御母は藤原睦子、承保三年御誕生、承德二年十二月女御となり給ふ、時に御年二十三、三年從四位上に敘し、康和五年正月二十五日太陽曆三月十二日卒し給ふ、御年二十八、從二位を贈らる、嘉承二年十二月十三日追尊して皇太后となし、御墓を改めて山陵に列し、後宇治陵と稱す、天仁元年七月七日國忌を轉輪院に置く、

御火葬塚は山城國京都市下京區今熊野字泉山、鳥野野陵域内にあり、

以上十七陵は御同域にして、周圍に土手を築き、生垣を回らす、



と稱す、天仁元年七月七日國忌を轉輪院に置く
御火葬塚は山城國京都市下京區今熊野字泉山、烏野野陵域内
にあり、
以上十七陵は御同域にして、周圍に土手を築き、生垣を回らす、

後山科陵

山城國宇治郡醍醐村大字醍醐字古道

醍醐天皇第十代御名は敦仁、初め維城といふ、宇多院天皇の

第一皇子、御母は女御贈皇太后胤子、仁和元年正月十八

日御降誕、寛平元年十二月親王となり、五年四月皇太子

に立ち、九年七月禪を受けて大極殿に即位し給ふ、時に

御年十三、在位三十三年、延長八年九月二十二日位を朱

雀院天皇に譲りて右近衛府の曹司に徙り、二十九日曆太閏十月

八月二十落飾して寶金剛と號し、是日崩じ給ふ、御年四十六、

十月十日醍醐寺の北、笠取山の西、小野寺の下に葬り奉

る、遺詔して、諡を奉らしめず、葬事儉約に従はしめ給ふ、

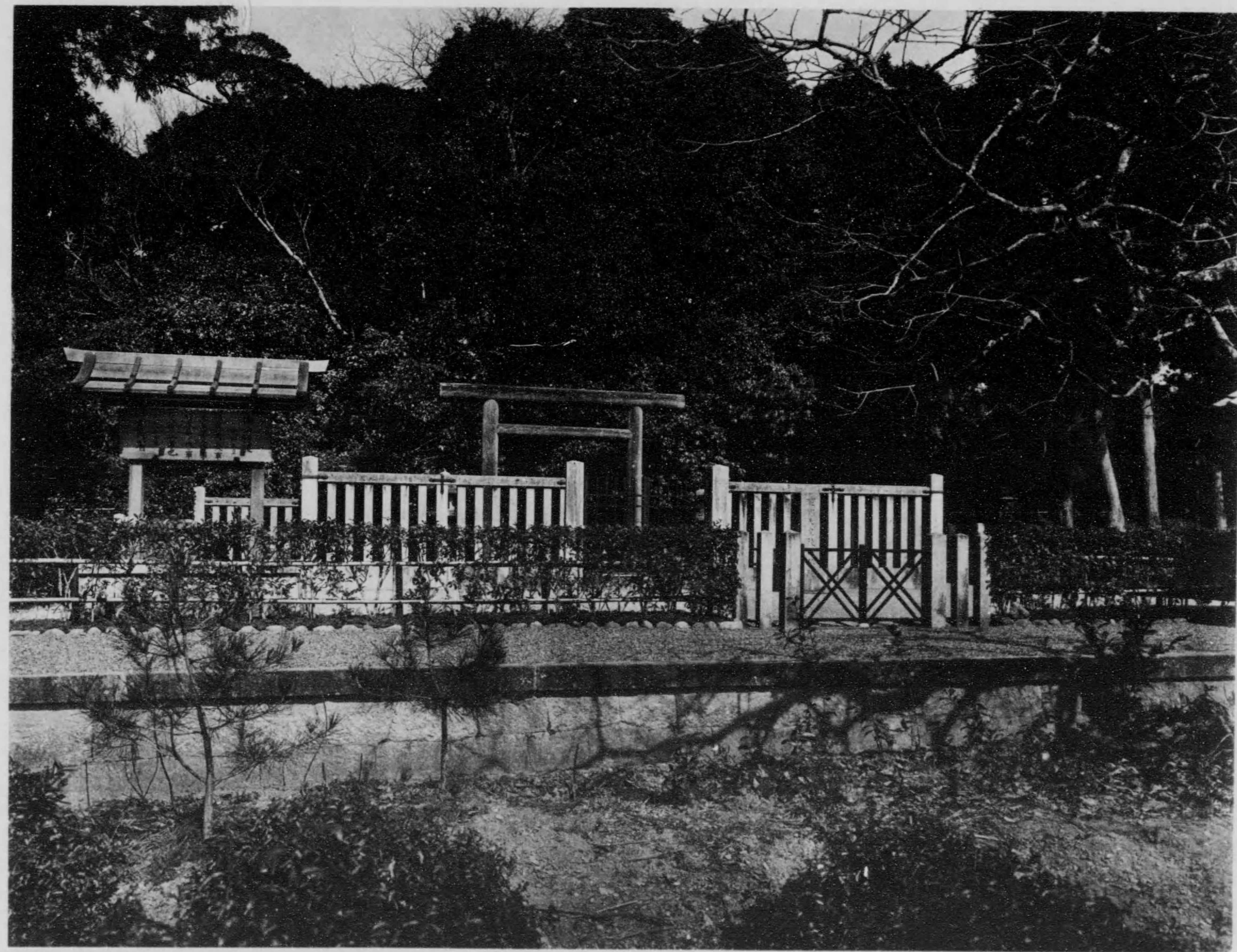
十一日辰刻御輿山陵に到る、百官素服す、陵は山を作ら

ず、平地に穴を掘り、内に御棺を歛め奉り、十二日陵上に

率塔婆三基を立て、小陸を環らす、醍醐天皇と申し、又、小

野帝と申す、陵は圓形にして、周圍に空陸を環らし、土手

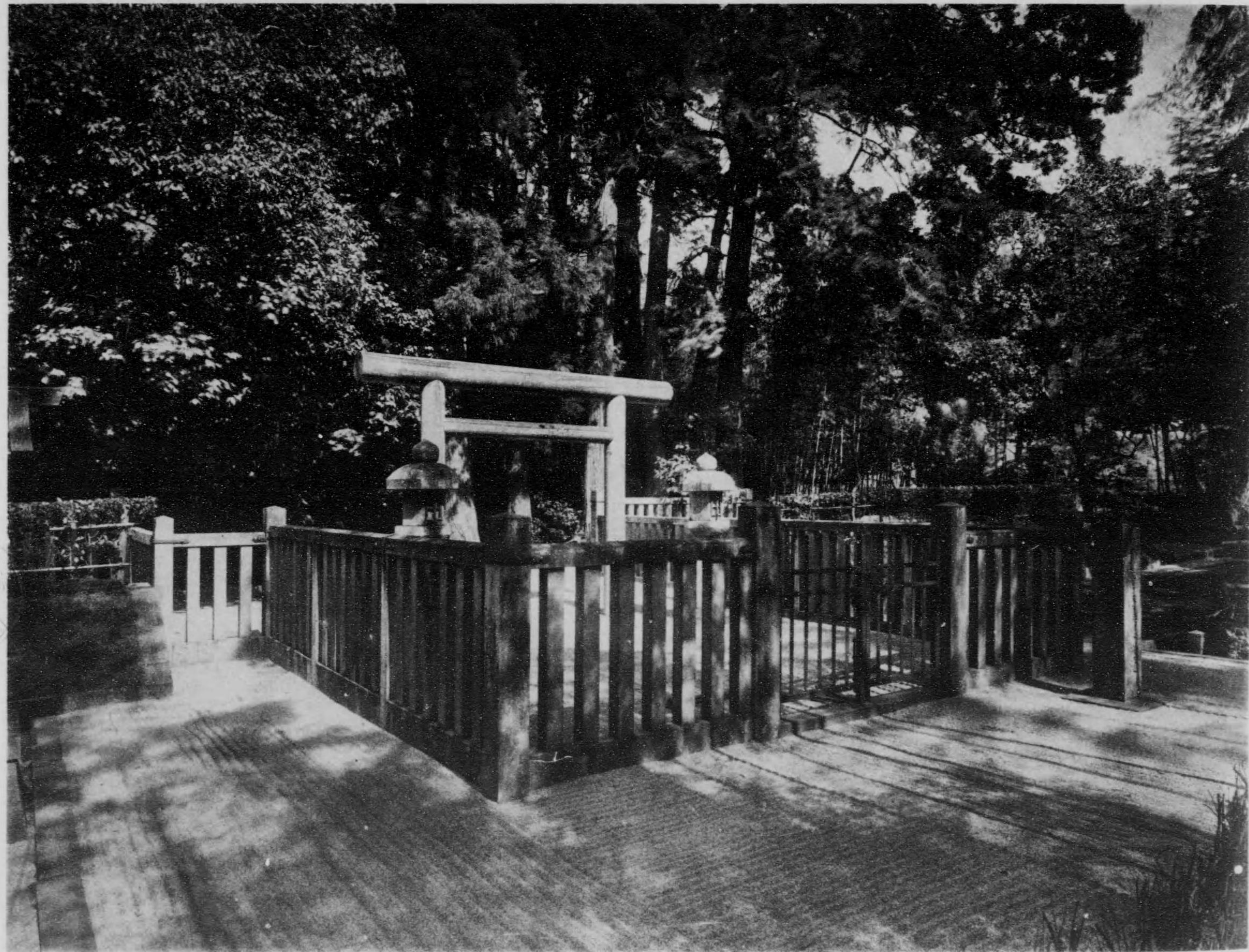
を築き、生垣を回らす、



醍醐陵

山城國宇治郡醍醐村大字醍醐字御陵東裏

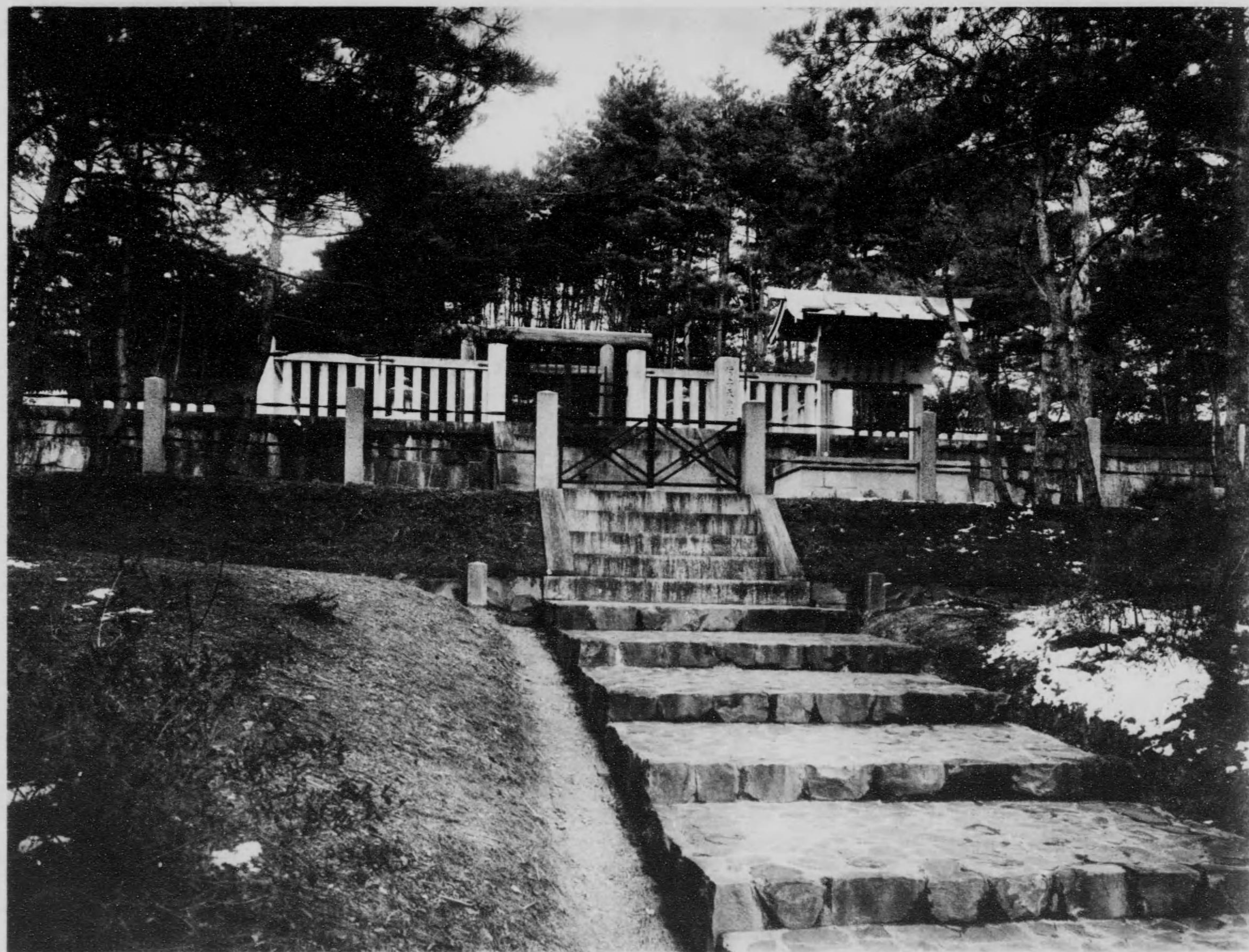
朱雀院^{スズクニノ}天皇^{テンノウ}第一六十御名は寛明^{カンメイ}醍醐天皇の第十三皇子、御母は皇太后穩子、延長元年七月二十四日、外舅太政大臣藤原忠平の五條第に生れ給ふ、十一月親王となり、三年十月皇太子に立ち、八年九月受禪、十一月大極殿に即位し給ふ、時に御年八、在位十六年、天慶九年四月位を村上天皇に譲り、七月朱雀院に徙り、天曆二年八月東二條院に徙り、十一月復、朱雀院に徙り、六年三月落飾して法名を佛陀壽と號し、四月仁和寺の本院に徙り、八月十五日本陽曆十一月十一日崩じ給ふ、御年三十、遺詔して、葬司を任じ、山陵を起すことを停め給ふ、朱雀院と申す、二十日御葬送、郁芳門より東に行き、東路を経て七條路より鴨河の浮橋を渡り、亥刻陵所に到り、御輿南門に入る、來定寺の北の野に山作司左近衛中將藤原朝成等、茶毘の事を奉仕す、其の上物竝に御輿等は内墻の北に於て之を焼く、二十一日朝御舍利を醍醐寺の東に遷し奉る、國忌を置かず、荷前に列せず、陵は方形にして、周圍に石柵を回らす、



村上陵

山城國葛野郡花園村大字宇多野字宇多ノ谷

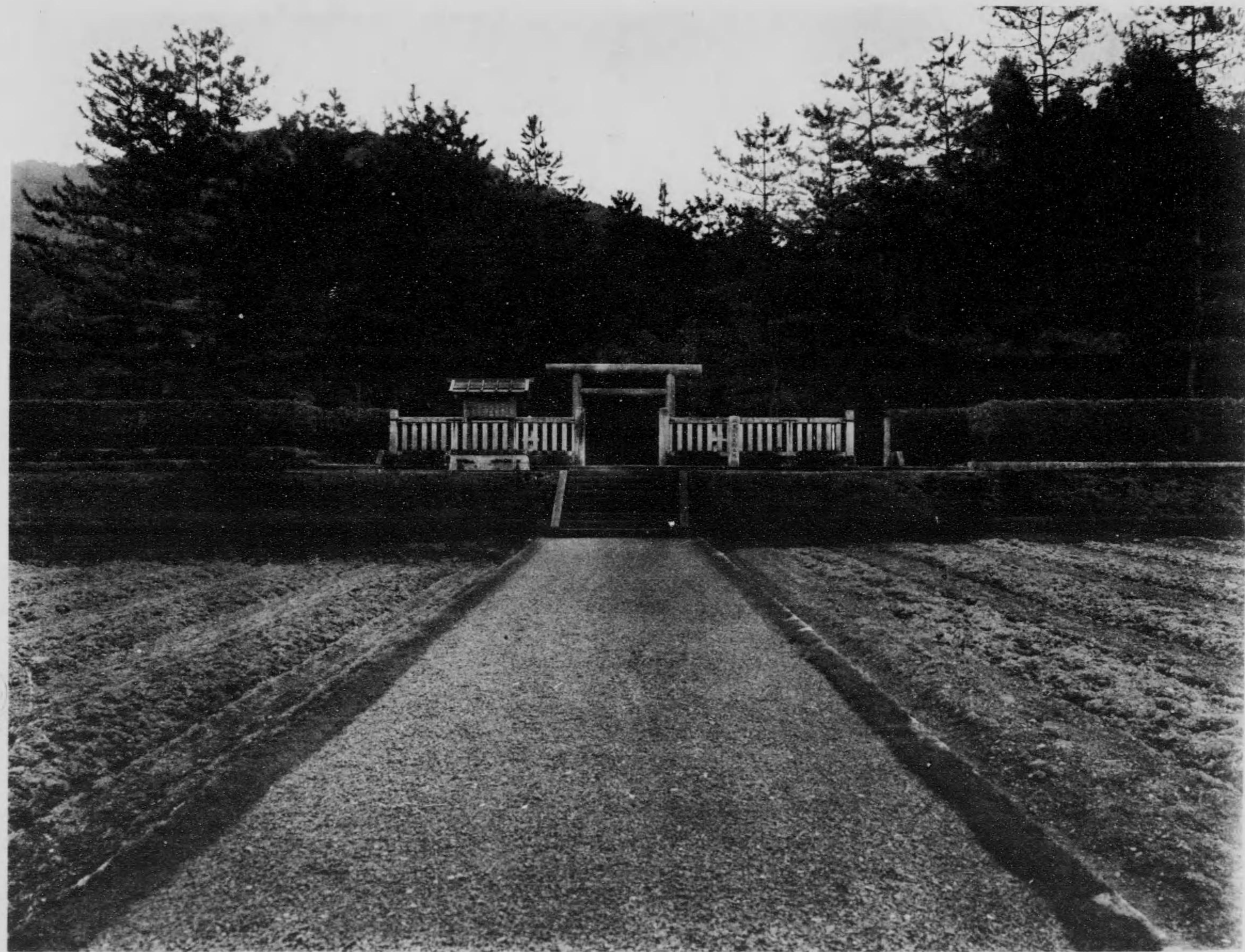
村上天皇二代六十御名は成明、醍醐天皇の第十五皇子、御母は中宮穩子、延長四年六月二日桂芳坊に生れ給ふ、十一月親王となり、天慶三年二月三品に敍し、六年十二月太宰帥に任ず、七年四月皇太弟に立ち、九年四月朱雀院天皇の禪を受けて大極殿に即位し給ふ、時に御年二十一、在位二十一年、康保四年五月二十五日大曆十曆七清凉殿に崩じ給ふ、御年四十二、是日落飾して法名を覺貞と號し給ふ、遺詔して、國忌山陵を置かしめ給はず、六月四日山城國葛野郡田邑郷北中尾に葬り奉り、九日左右近衛をして樹を陵に植ゑしむ、村上天皇と申す、陵は圓墳にして、周圍に生垣を回らす、



櫻本陵

山城國京都市上京區鹿ヶ谷法然院町字北野

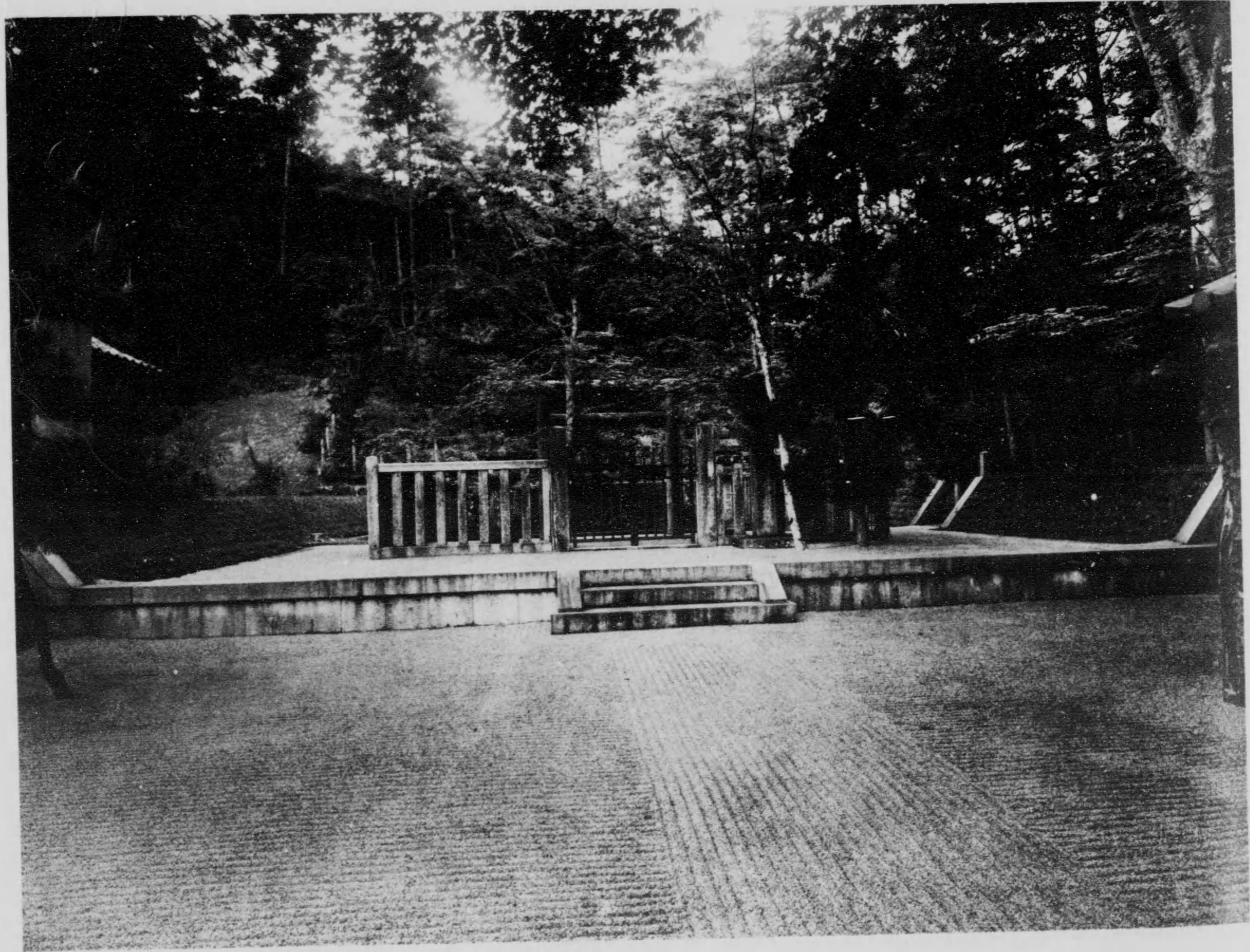
冷泉院^{レイゼンイン}天皇^{三第六十}御名は憲平^{ケンヘイ}、村上天皇の第二皇子、御母は中宮安子^{ミチノミヤアサコ}、天曆四年五月二十四日丹波守藤原遠規の家に生れ給ふ、七月親王となり、皇太子に立ち、康保四年五月襲芳舎に踐祚し、十月紫宸殿に即位し給ふ、時に御年十八、在位二年、安和二年八月位を圓融院天皇に譲りて弘徽殿に徙り、尋で冷泉院に徙り、天祿元年四月朱雀院に徙り、寛弘五年十二月冷泉の南院に徙り、八年十月二十四日^{太陽曆十一月二十七日}崩じ給ふ、御年六十二、冷泉院と申す、十一月十六日櫻本寺の前の野に火葬し、御骨を山側に藏め奉る、陵は圓墳にして、周圍に土手を築き、生垣を回らす、御火葬塚は陵に近く、鹿ヶ谷寺^{カガヤノ}ノ前町^{マエマチ}字御廟所^{ミヤウラナ}にあり、圓墳にして、周圍に生垣を回らす、



岩倉陵

山城國愛宕郡岩倉村大字岩倉字門前町

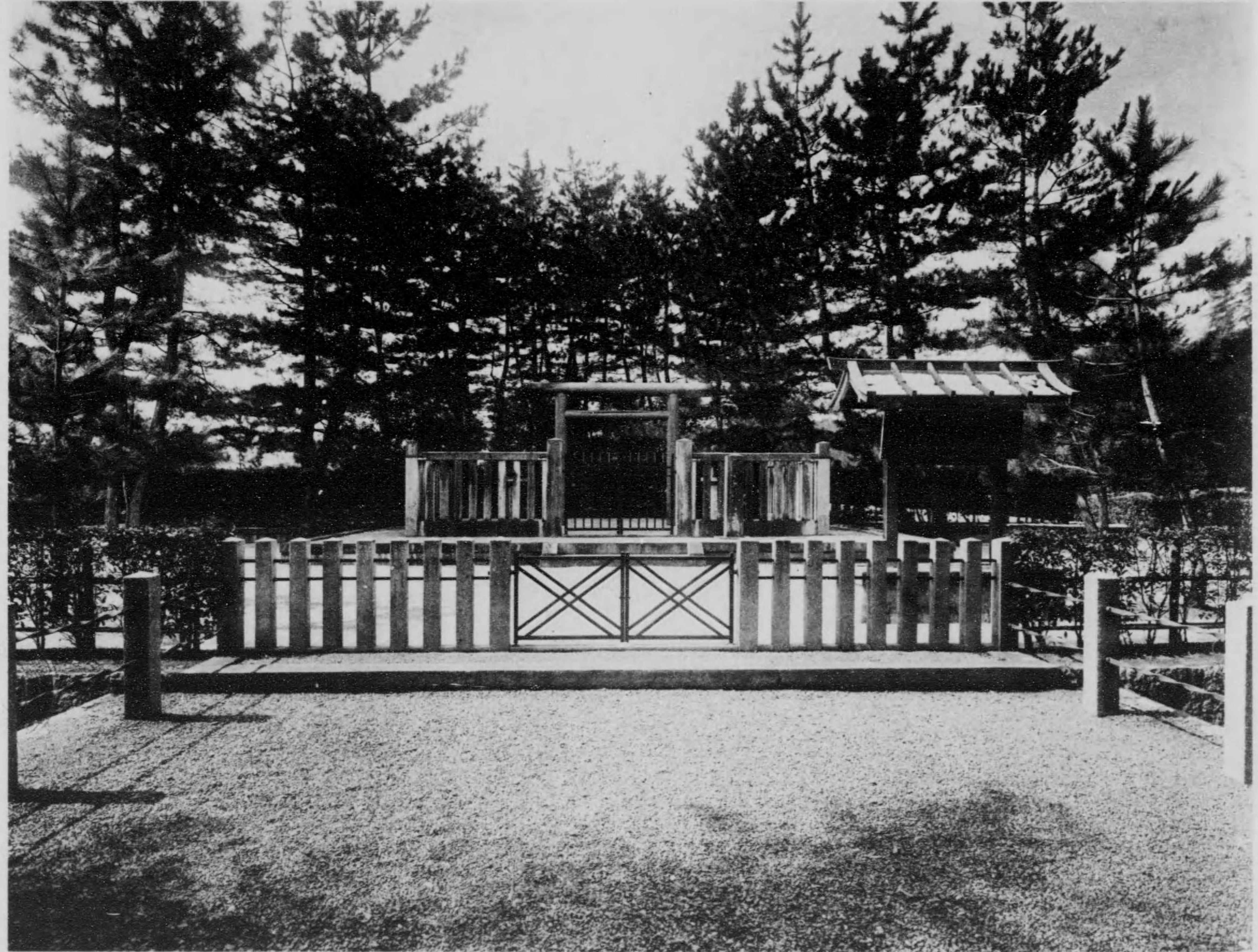
冷泉院天皇皇后昌子内親王、朱雀院天皇の皇女、御母は
女御熙子女王、天曆四年御誕生、是歳内親王となり、應和
元年十二月初筭して三品に敘し、冷泉院天皇未だ皇太
子におはしませず時入りて妃となり、康保四年九月皇后
に立ち、天延元年七月皇太后となり、寛和二年七月太皇
太后となり、長保元年十二月一日太皇太后權大進橘道貞
の三條第に崩じ給ふ、御年五十、親ら遺令を書して、後事
を條具し、一に儉薄に従はしめ給ふ、五日觀音院に葬り
奉る、世に三條太皇太后、又、觀音院太后と申す、陵は圓墳
にして、五葉松あり、周圍に石柵を回らす、



後村上陵

山城國葛野郡花園村大字宇多野字宇多ノ谷

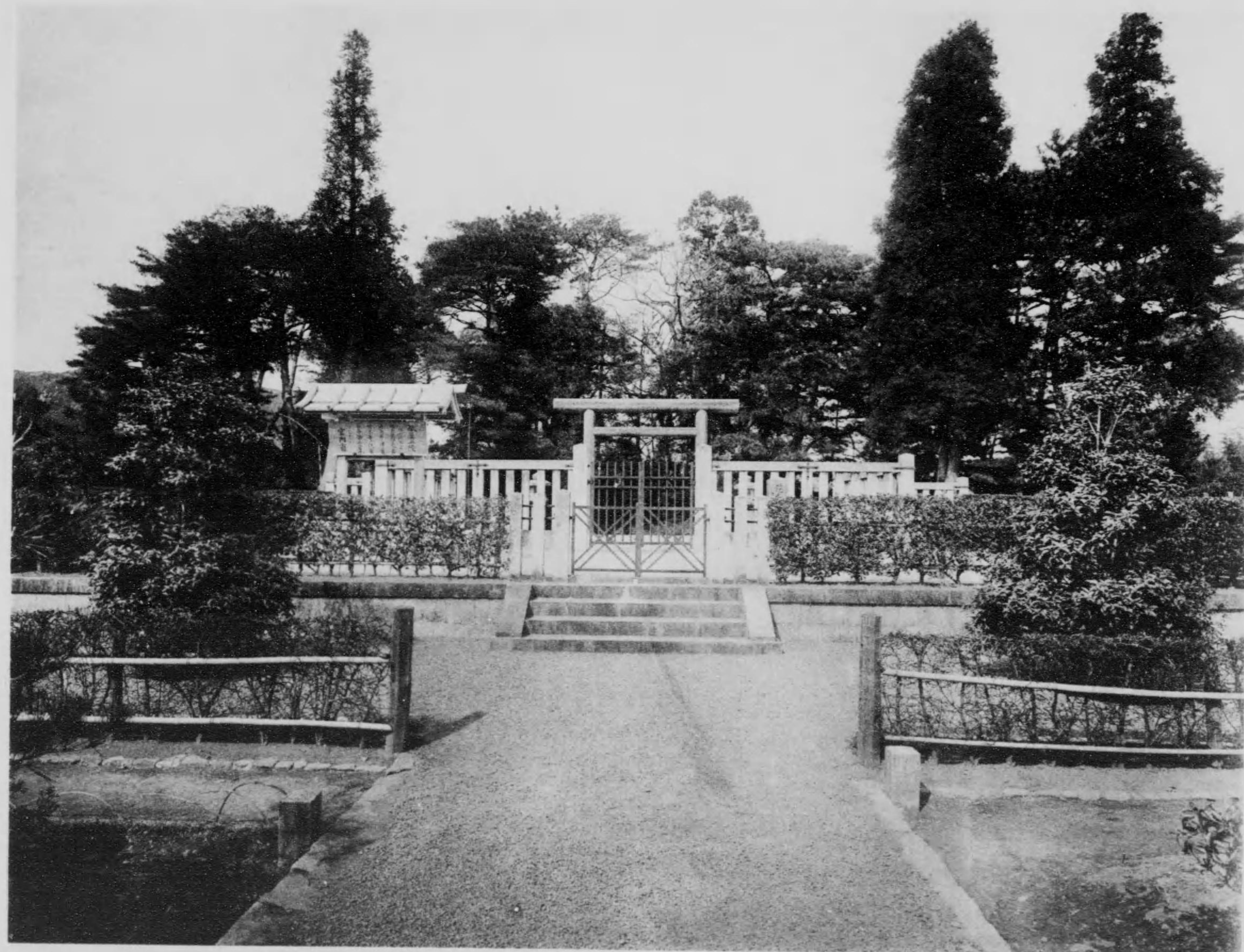
圓融院^{ミナモトノ}天皇^{第百六十}御名は守平、村上天皇の第七皇子、御母は中宮安子、天德三年三月二日御降誕、十月親王となり、康保四年九月皇太弟に立ち、安和二年八月冷泉院天皇の禪を受け、九月大極殿に即位し給ふ、時に御年十一、在位十五年、永觀二年八月位を花山院天皇に譲り、寛和元年八月落飾して金剛法と號し給ふ、是より先堀河院におはしまし、が、九月圓融院に徙り、正曆二年二月十二日^{太陽曆三月六日}崩じ給ふ、御年三十三、遺詔して、素服哀を擧げ、及び山陵國忌を置くことを停め給ふ、圓融院と申す、十九日圓融寺の北の原に火葬し、御骨を村上山陵の傍に藏め奉る、陵は圓墳にして、周圍に生垣を回らす、御火葬塚は、山城國葛野郡花園村大字谷口字朱山にあり、圓墳にして、周圍に土手を築く、



紙屋上陵

山城國京都市上京區衣笠北道町

花山院天皇第五十六代御名は師貞、冷泉院天皇の第一皇子、御母は女御贈皇太后懷子、安和元年十月二十六日外祖太政大臣藤原伊尹の一條第に生れ給ふ、十二月親王となり、二年八月皇太子に立ち、永觀二年八月圓融院天皇の禪を受け、十月大極殿に即位し給ふ、時に御年十七、在位二年、寛和元年六月二十三日夜潛に宮を出で、花山の元慶寺に入り、翌日披剃して、僧となり、入覺と號し、寛弘五年二月八日太陽曆三月二十三日花山院に崩じ給ふ、御年四十一、遺詔して、素服哀を擧ぐることを停め給ふ、花山院と申す、十七日紙屋川の上、大和寺の東、法音寺の北に葬り奉る、陵は圓墳にして、中央に菩提樹あり、周圍に空陸を環らし、土手を築き、生垣を回らす、



圓融寺北陵
後圓教寺陵

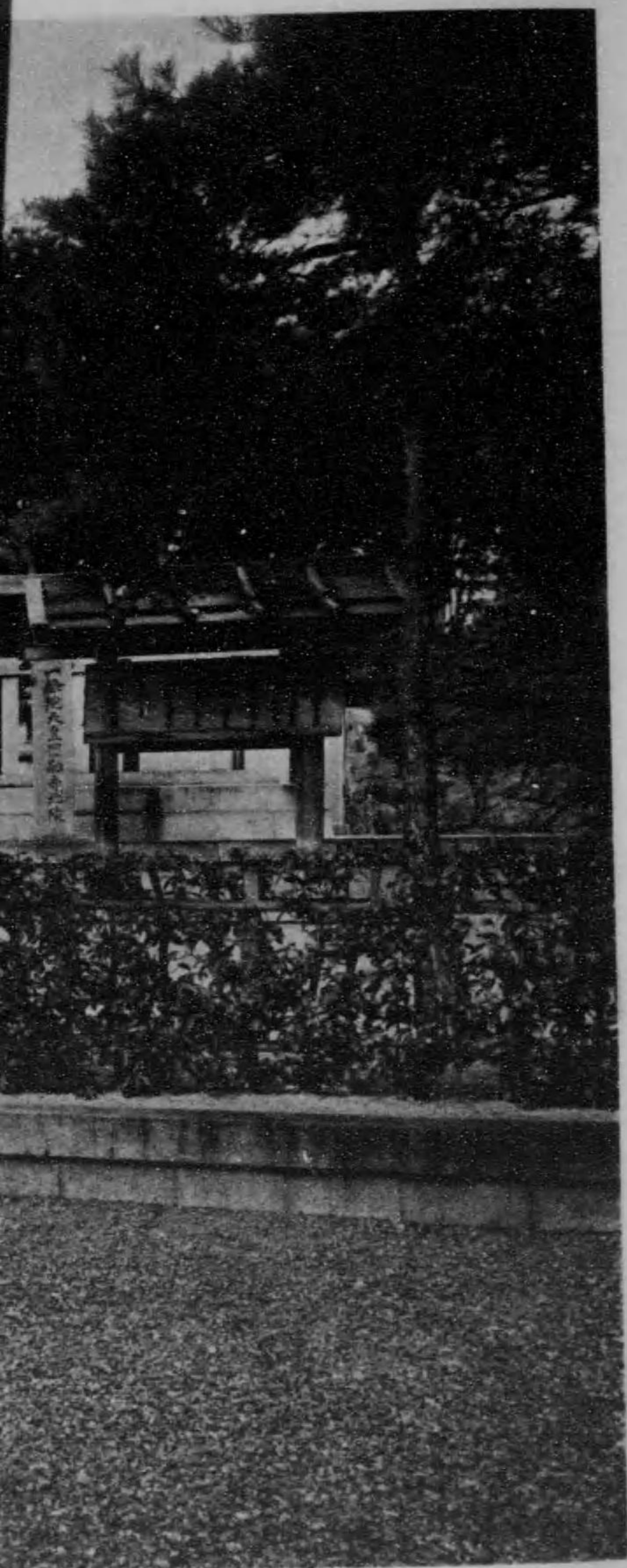
山城國葛野郡花園村大字谷口字朱山

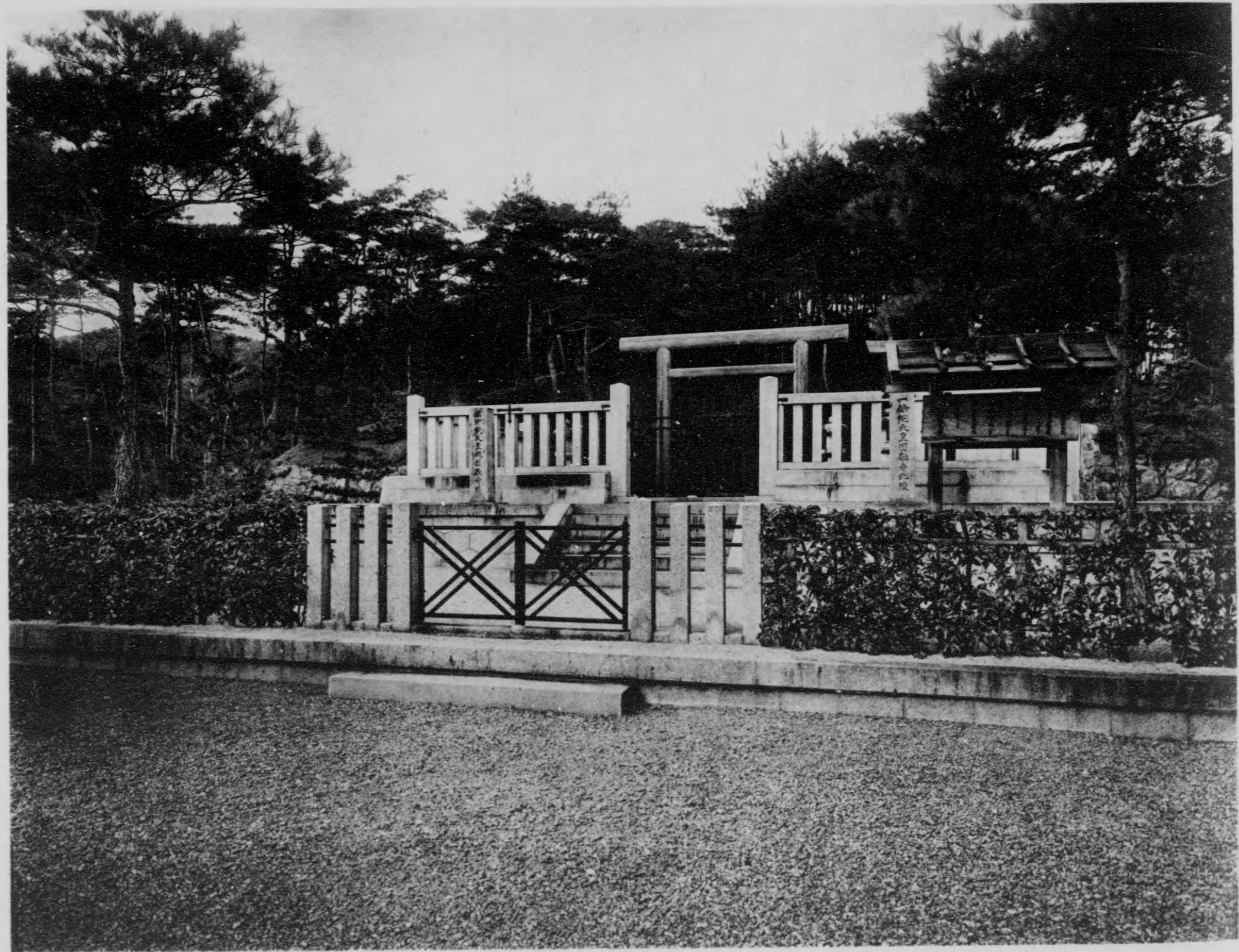
一條院天皇第七十六代御名は懷仁、圓融院天皇の皇子、御母は皇太后詮子、天元三年六月一日外祖太政大臣藤原兼家の東三條第に生れ給ふ、八月親王となり、永觀二年八月皇太子に立ち、寛和二年六月二十三日花山院天皇位を遷れ給ふや、即夜劍璽を受け、明日受禪の儀を行ひ、七月大極殿に即位し給ふ、時に御年七、在位二十五年、寛弘八年六月十三日位を三條院天皇に譲り、十九日落飾して精進覺と號し、二十二日太陽曆七月三十一日一條院の中殿に崩じ給ふ、御年三十二、遺詔して、山陵國忌及び素服哀を擧ぐることを停め給ふ、一條院と申す、七月八日北山長坂野に火葬し、御骨は參議藤原正光頸に懸け暫く圓成寺に奉安し、二十日方二尺の小塔に納め奉り、之を辛櫃に納め、上に小屋を造り、寶形を居ゑ、戸内に安置し奉る、後九年寛仁四年六月十六日圓融寺の北、圓融院天皇の陵側御火葬塚を謂ふに藏め奉る、圓融寺北陵と稱す、陵は堀河院天皇後圓教寺陵と御同域にして、共に圓墳なり、周圍に土手を築き、石柵を回らす、

御火葬塚は、山城國京都市上京區衣笠鏡石町にあり、楕圓形の御塚にして、周圍に生垣を回らす、

堀河院天皇第七十代御名は善仁、白河院天皇の第三皇子、御母は中宮賢子、承暦三年七月九日但馬守橘俊綱の第に生れ給ふ、十一月親王となり、應德三年十一月皇太子に立ち、即日受禪、十二月大極殿に即位し給ふ、時に御年八、在位二十一年、嘉承二年七月十九日陽太曆八月十六日堀河院に崩じ給ふ、御年二十九、二十四日追號して堀河院と申す、是夜御葬送、二條堀河大炊御門大宮一條を経て、西大宮を南近衛を西、道祖神大路を北、香隆寺の坤方の野に到りて火葬し、夜半に及びて擧物、御調度、黃幡、御輿を外垣の内に於て悉く焼き、翌朝事訖りて酒にて火を滅し、御骨を拾ひ、茶碗に納め奉り、中納言

源國信頸に懸け、香隆寺に奉安す、後六年永久元年三月二十二日
參議右近衛中將源顯雅御骨を頸に懸け、香隆寺より仁和寺の圓
融院に移し奉り、顯雅以下五人觸穢の人々、山陵の溝中に入り、午
刻より酉刻まで突き埋め奉り、其の後三重の石塔を立て、其の内
に法華經陀羅尼等を安置す、後圓教寺陵と稱す、國忌を尊勝寺に
置く、陵は一條院天皇圓融寺北陵と御同域にして、共に圓墳なり、
周圍に土手を築き、石柵を回らす、
御火葬塚は山城國京都市上京區等持院東町にあり、圓墳にし
て、周圍に土手を築き、生垣を回らす、

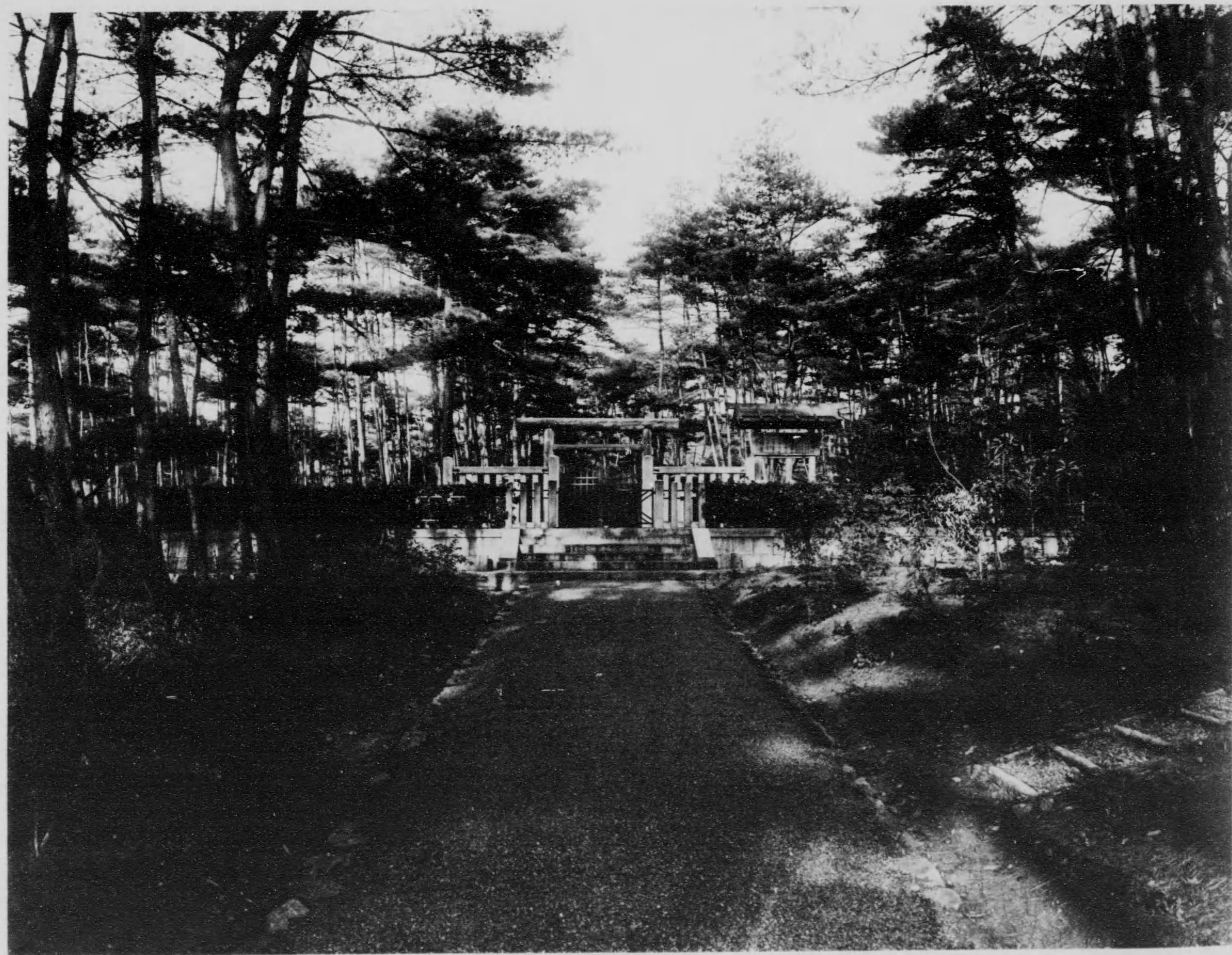




鳥戸野陵

山城國京都市下京區今熊野字泉山

一條院天皇皇后定子、内大臣正二位藤原道隆の女、御母
は高階貴子、貞元元年御誕生、正暦元年正月入内して女
御となり給ふ、時に御年十五、十月中宮に立ち、長徳二年
五月薙髮して尼となり、長保二年二月、女御藤原彰子中
宮となるに及び、改めて皇后と稱し、十二月十六日太陽
一月十日
崩じ給ふ、御年二十五、二十七日鳥部野に葬り奉る、陵
は圓墳にして周圍に生垣を回らす、



北山陵

山城國京都市上京區衣笠殿町

三條院天皇第八十六御名は居貞冷泉院天皇の第二皇子、御母は女御贈皇太后超子、貞元元年正月三日外祖太政大臣藤原兼家の東三條第に生れ給ふ、天元元年十一月親王となり、寛和二年七月皇太子に立ち、寛弘八年六月一條院天皇の禪を受け、十月大極殿に即位し給ふ、時に御年三十六、在位五年、長和五年正月位を後一條院天皇に譲り、寛仁元年四月落飾して金剛淨と號し、五月九日陽太讓り、冊一六月三條院に崩じ給ふ、御年四十二、遺詔して、素服哀を擧ぐることを停め給ふ、三條院と申す、十二日船岡の西北石蔭に火葬し、御骨を北山の小寺中に藏め奉る、陵は圓墳にして、周圍に生垣を回らす、

